新渡戸カレッジ

2022年度 活動報告書

北海道大学 新渡戸カレッジ

目　　次

1　副校長メッセージ …… 1

2　沿革 …… 2

3　組織図 …… 3

4　運営体制 …… 4

5　学部教育コース、大学院教育コース概要 …… 13

6　行事一覧 …… 15

7　授業概要、特別講演概要、行事概要 …… 16

8　入校者数、修了者数、称号授与者数、部局別在籍者数 …… 120

9　主な就職先、修了者進路 …… 125

10　奨学金支給状況 …… 126

11　留学の状況 …… 127

12　FD 報告 …… 129

13　新渡戸ポートフォリオの活用 …… 132

14　会議の開催状況 …… 133

15　広報資料一覧 …… 137

1　副校長メッセージ

巻 頭 言

新渡戸カレッジ副校長　　弛　和順

新渡戸カレッジは、北海道大学における学部横断的な特別教育プログラムとして、平成 25 年（2013）に創設されました。平成 27 年（2015）には、大学院生を対象とした新渡戸スクールが設置され、平成 31 年（2019）には、その二つのプログラムを統合し、全体を新渡戸カレッジと称するとともに、学部教育コースと大学院教育コースを置き、両者の一体化を図りつつ、現在に至ります。

新渡戸カレッジの名称は、いうまでもなく、本学の前身である札幌農学校、その第二期生、新渡戸稲造に由来します。新渡戸は、札幌農学校の卒業生であるばかりか、その後、同校の教員として、11 年間在籍し、教育研究に従事しました。また、日本の文化、日本人の精神を広く世界に向けて、英語で発信した『武士道』を著述したほか、国際連盟の初代事務次長として、世界平和の実現を目指して尽力するなど、近代日本きっての国際人といえます。

こうした新渡戸の真摯な活動に範を求め、その精神に学びながら、幅広い分野にわたって、高い精神性と異文化理解、コミュニケーション力を身につけ、将来、グローバル世界で活躍できるリーダーを育成することが、新渡戸カレッジの目標です。

そのため、新渡戸カレッジでは、従来の教育方法に学びながらも、必ずしもその手法にとらわれることなく、日々試行を重ねながら、新たな授業や行事などの教育活動に取り組んでまいりました。そうした活動については、各種の会議や学部・学院との懇談の場において、逐一報告してきましたが、それらをまとめて刊行するには至りませんでした。

このたび、新渡戸カレッジが設立され、10 年の節目を迎えるに当り、まずは、令和 4 年度（2022）の教育活動に関して、冊子の形で報告することにしました。今後もこうした体をとりながら、年度ごとの活動を公表していきたいと考えております。何卒、本冊子をご高覧いただき、お気づきの点など、ご批正たまわれば、幸甚です。また、引き続き、新渡戸カレッジの諸活動にご理解とご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

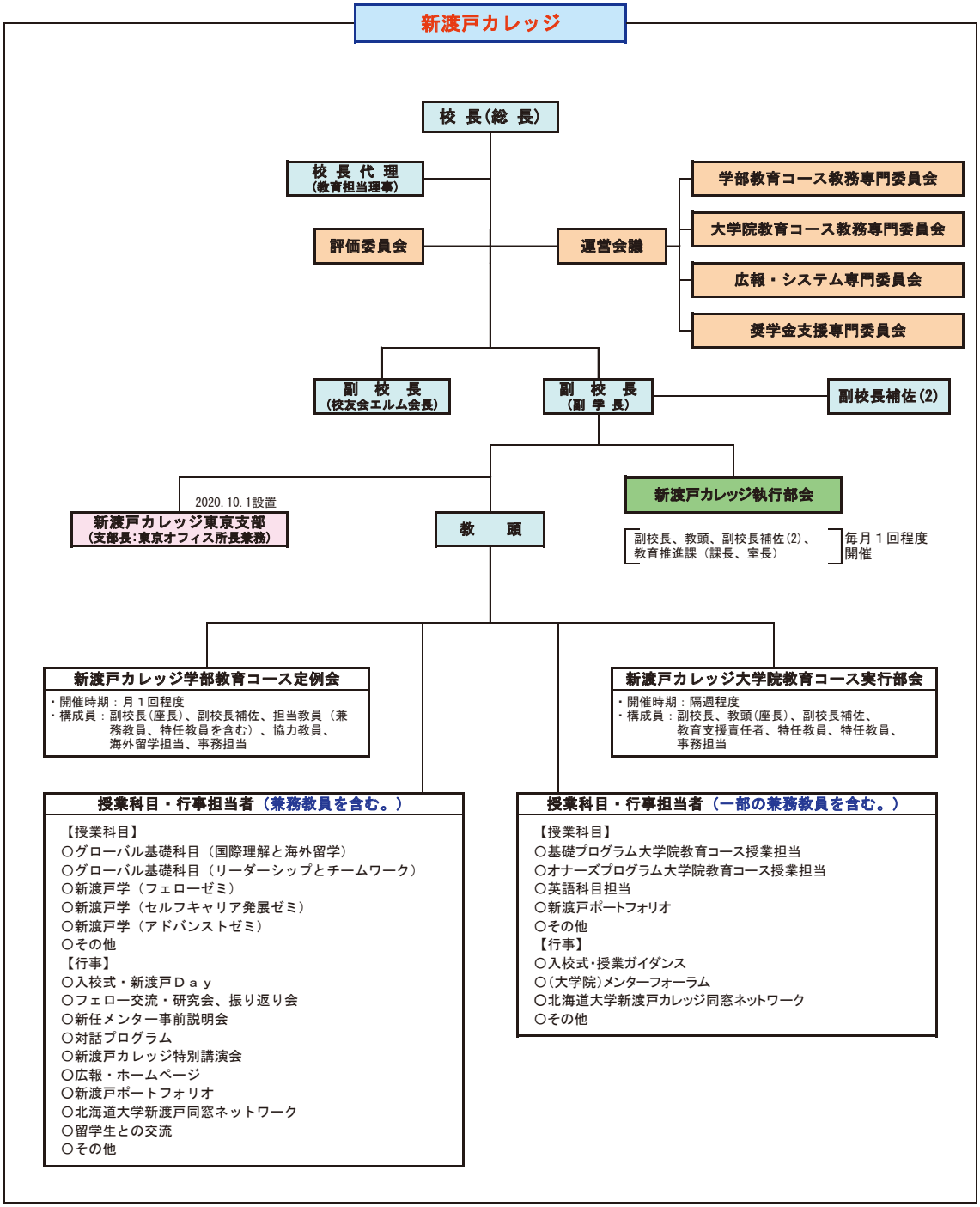
２　新渡戸カレッジの沿革

平成 25 年（2013）4 月	北海道大学に学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を開校
平成 27 年（2015）4 月	北海道大学に大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を開校
平成 28 年（2016）3 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」から第 1 期生 15 名が修了
平成 29 年（2017）4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を「基礎プログラム」と「オナーズプログラム」の 2 段階のプログラムに変更 大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」に博士課程学生対象の上級プログラムを開設
平成 31 年（2019）4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」と大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を統合し、新生「新渡戸カレッジ」（学部教育コース・大学院教育コース）を設立

令和 4 年 5 月 14 日（土）新渡戸カレッジ（学部教育コース）入校式　校長挨拶

３　新渡戸カレッジ組織図

令和４年４月１日現在



【新渡戸カレッジ役職者一覧】

役 職 名	氏　　名	所　属・職　名
校長	寶　金　清　博	総長
校長代理	山　口　淳　二	理事・副学長
副校長	弛　　和　順	副学長・文学研究院教授
副校長	杉　江　和　男	北海道大学校友会エルム会長
教頭	小　田　　研	理学研究院教授
東京支部長	山　田　澤　明	北海道大学東京オフィス所長
副校長補佐	髙　橋　　彩	高等教育推進機構国際教育研究部長・副理事・高等教育推進機構教授
副校長補佐	谷　　博　文	工学研究院准教授

4　新渡戸カレッジ運営体制（令和４年４月１日現在）

（1）役職員

No.	氏　名	役職・所属等
1	寳　金　清　博	校長・総長
2	山　口　淳　二	校長代理・理事・副学長（教育担当）
3	弛　　和　順	副校長・副学長・文学研究院教授
4	杉　江　和　男	副校長・校友会エルム会長、招へい教員（客員教授）
5	小　田　　研	教頭・理学研究院教授
6	髙　橋　　彩	副校長補佐・副理事・高等教育推進機構国際教育研究部長・同機構教授
7	谷　　博　文	副校長補佐・工学研究院准教授

（2）運営会議委員

No.	職　名	氏　名	任　期　等
1	校長（総長）：議長	寳　金　清　博	R2.10.1～
2	校長代理（総長が指名する理事）	山　口　淳　二	R4.4.1～R6.3.31
3	新渡戸カレッジ副校長	弛　　和　順	R4.4.1～R6.3.31
4	新渡戸カレッジ副校長（同窓生）	杉　江　和　男	R 元 .6.15～
5	新渡戸カレッジ教頭	小　田　　研	R2.10.1～R6.3.31
6	文学部長・文学院長	藤　田　　健	R4.4.1～R6.3.31
7	教育学部長・教育学院長	横　井　敏　郎	R4.4.1～R6.3.31
8	法学部長・法学研究科長	小名木　明　宏 尾　﨑　一　郎	R2.12.15～R4.12.14 R4.12.15～R6.12.14
9	経済学部長・経済学院長	久保田　　肇	R4.4.1～R6.3.31
10	理学部長	網　塚　　浩	R3.4.1～R5.3.31
11	医学部長・医学院長	畠　山　鎮　次	R3.4.1～R5.3.31
12	歯学部長・歯学院長	網　塚　憲　生	R4.4.1～R6.3.31
13	薬学部長	木　原　章　雄	R3.4.1～R5.3.31
14	工学部長・工学院長	瀬戸口　　剛	R3.4.1～R5.3.31
15	農学部長・農学院長	西　邑　隆　徳	R3.4.1～R5.3.31
16	獣医学部長	滝　口　満　喜	R3.4.1～R5.3.31
17	水産学部長・水産科学院長	都　木　靖　彰	R4.4.1～R6.3.31
18	環境科学院長	谷　本　陽　一	R3.10.1～R5.9.30
19	理学院長	永　井　隆　哉	R3.4.1～R5.3.31
20	生命科学院長	佐　藤　美　洋	R3.4.1～R5.3.31

21	国際広報メディア・観光学院長	河　合　　靖	R3.4.1～R5.3.31
22	保健科学院長	伊　達　広　行	R4.4.1～R6.3.31
23	総合化学院長	佐　田　和　己	R4.4.1～R6.3.31
24	獣医学院長	石　塚　真由美	R3.4.1～R5.3.31
25	医理工学院長	久　下　裕　司	R3.4.1～R5.3.31
26	国際感染症学院長	堀　内　基　広	R3.4.1～R5.3.31
27	国際食資源学院長	高　橋　昌　志	R3.4.1～R5.3.31
28	情報科学院長	長谷山　美　紀	R4.4.1～R6.3.31
29	公共政策学教育部長	空　井　　護	R3.4.1～R5.3.31
30	高等教育推進機構全学教育部長	佐々木　　啓	R2.10.20～
31	高等教育推進機構総合教育部長	鈴　木　久　男	R2.10.20～
32	高等教育推進機構国際教育研究部長	髙　橋　　彩	R2.10.20～
33	同窓生	高　杉　重　夫	R3.4.1～R5.3.31
34	同窓生	井　上　修　平	R3.4.1～R5.3.31
35	同窓生	志　済　聡　子	R3.4.1～R5.3.31
36	学務部長	平　田　公　明	R4.4.1～
37	その他総長が認めた者	谷　　博　文	R3.4.1～R5.3.31

(3) 学部教育コース教務専門委員会

No.	所　属	役　職	氏　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ	副校長	弛　　和　順	職指定（委員長）
2	新渡戸カレッジ	教頭	小　田　　研	職指定
3	外国語教育センター	センター長	奥　　聡	職指定
4	文学部	教授	加　藤　重　広	R4.4.1～R6.3.31
5	教育学部	教授	関　　あゆみ	R4.4.1～R6.3.31
6	法学部	教授	野　田　耕　志	R4.4.1～R6.3.31
7	経済学部	准教授	相　原　基　大	R3.4.1～R5.3.31
8	理学部	教授	根　本　幸　児	R3.4.1～R5.3.31
9	医学部	教授	髙　橋　　誠	R4.4.1～R6.3.31
10	歯学部	教授	山　崎　　裕	R3.4.1～R5.3.31
11	薬学部	講師	松　田　研　一	R4.4.1～R6.3.31
12	工学部	教授	森　　太　郎	R4.4.1～R6.3.31
13	農学部	教授	小　関　成　樹	R3.4.1～R5.3.31
14	獣医学部	教授	苅　和　宏　明	R4.4.1～R6.3.31
15	水産学部	准教授	バウア ジョン リチャード	R3.4.1～R5.3.31

16	高等教育推進機構	全学教育部長	佐々木　　啓	職指定
17	高等教育推進機構	国際教育研究部長	髙　橋　　彩	職指定
18	学務部	教育推進課長	的　野　裕　司	職指定
19	学務部	国際交流課長	菅　原　暢　廣	職指定
20	医学部保健学科	教授	境　　信　哉	R4.4.1～R6.3.31

（4）大学院教育コース教務専門委員会

No.	所　属	職　名	氏　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ	副校長	弛　　和　順	職指定
2	新渡戸カレッジ	教頭	小　田　　研	職指定
3	法学研究科	教授	川　村　　力	R3.4.1～R5.3.31
4	水産科学院	教授	山　﨑　浩　司	R4.4.1～R5.3.31
5	環境科学院	准教授	梅　澤　大　樹	R3.4.1～R5.3.31
6	理学院	教授	根　本　幸　児	R3.4.1～R5.3.31
7	農学院	教授	近　藤　　巧	R3.4.1～R5.3.31
8	生命科学院	教授	芳　賀　　永	R3.4.1～R5.3.31
9	教育学院	教授	大　野　栄　三	R3.4.1～R5.3.31
10	国際広報メディア・観光学院	准教授	原　田　真　見	R4.4.1～R5.3.31
11	保健科学院	教授	横　澤　宏　一	R3.4.1～R5.3.31
12	工学院	准教授	渡　邊　直　子	R3.4.1～R5.3.31
13	総合化学院	教授	向　井　　紳	R3.4.1～R5.3.31
14	経済学院	准教授	早　川　　仁	R4.4.1～R5.3.31
15	医学院	教授	大　場　雄　介	R3.4.1～R5.3.31
16	医理工学院	教授	石　川　正　純	R3.4.1～R5.3.31
17	国際食資源学院	准教授	内　田　義　崇	R3.4.1～R5.3.31
18	文学院	教授	李　　連　珠	R4.4.1～R5.3.31
19	情報科学院	教授	浅　井　哲　也	R4.4.1～R5.3.31
20	公共政策学教育部	教授	今　井　　晋	R3.4.1～R5.3.31
21	学務部教育推進課	課長	的　野　裕　司	職指定
22	新渡戸カレッジ	副校長補佐	谷　　博　文	R4.4.1～R6.3.31

(5) 広報・システム専門委員会

No.	所属・職名	氏　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ副校長	弛　和　順	職指定
2	新渡戸カレッジ教頭	小　田　研	職指定（委員長）
3	新渡戸カレッジ副校長補佐	谷　博　文	R4.4.1～R5.3.31
4	高等教育推進機構准教授	野　澤　俊　介	R4.4.1～R5.3.31
5	高等教育推進機構特任准教授	内　田　治　子	R4.4.1～R5.3.31
6	高等教育推進機構特任准教授	繁　富　香　織	R4.4.1～R5.3.31
7	高等教育推進機構講師	山　畑　倫　志	R4.4.1～R5.3.31
8	学務部教育推進課長	的　野　裕　司	職指定

(6) 奨学金支援専門委員会

No.	所属・職名	氏　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ副校長	弛　和　順	職指定（委員長）
2	新渡戸カレッジ教頭	小　田　研	職指定
3	経済学部准教授	相　原　基　大	学部教育コース教務委員会委員
4	農学部教授	小　関　成　樹	学部教育コース教務委員会委員
5	歯学部教授	山　崎　裕	学部教育コース教務委員会委員
6	生命科学院教授	芳　賀　永	大学院教育コース教務委員会委員
7	高等教育推進機構 国際教育研究部長	髙　橋　彩	職指定
8	学務部教育推進課長	的　野　裕　司	職指定
9	学務部国際交流課長	菅　原　暢　廣	職指定

(7) 評価委員会

No.	所　属	役職名	氏　名	任　期　等
1	学外委員	フェロー	島　田　元　生	R4.4.1～R6.3.31
2	学外委員	フェロー	佐々木　亮　子	R4.4.1～R6.3.31
3	学外委員	フェロー・メンター	萩　野　泉	R4.4.1～R6.3.31
4	学外委員	メンター	佐　伯　百合子	R4.4.1～R6.3.31
5	新渡戸カレッジ	副校長	弛　和　順	職指定
6	新渡戸カレッジ	教頭	小　田　研	職指定
7	高等教育推進機構 （新渡戸カレッジ）	国際教育研究部長 （副校長補佐）	髙　橋　彩	職指定
8	工学研究院 （新渡戸カレッジ）	准教授 （副校長補佐）	谷　博　文	R4.4.1～R6.3.31

(8) フェロー

No.	氏　名	担　当	現職（元職を含む）	卒年等
1	井上　修平	対話、国際、G 基礎	元双日㈱執行役員・顧問　元シンフォニアテクノロジー㈱取締役　北海道大学参与　招へい教員（客員教授）	S50 工
2	上田　英樹	CDS（統括）	日本情報通信株式会社　取締役　上席執行役員 エンタープライズ第一事業本部長	S63 教
3	大塚　榮子	対話	北海道大学名誉教授　産業技術総合研究所名誉フェロー	S38 薬博
4	志済　聡子	対話	中外製薬㈱　上席執行役員 デジタルトランスフォーメーションユニット長	S61 法
5	柴田　哲史	A ゼミ	佐藤工業㈱　札幌支店技術部長	S62 工修
6	石川　裕一	対話／F ゼミ	㈱ぷらう代表取締役 ジョンソンコントロールズ㈱取締役	S54 法
7	伊藤　　慎	CDS（統括）F ゼミ	アルジェニクスジャパン株式会社　神経疾患領域マーケティング部門　アソシエイトディレクター	H15 薬修
8	萱野　　聡	対話	㈱サクセスボード代表取締役社長	S62 法
9	島田　元生	対話	㈱ビスキャス非常勤顧問 北海道大学招へい教員（客員教授）	S47 工
10	多田　幸雄	F ゼミ（統括）	㈱双日総合研究所　相談役 長崎大学経済学部客員教授	S51 農
11	大友　俊彦	F ゼミ	中外製薬㈱　オンコロジーライフサイクルマネジメント部長	H4 獣
12	渋江　隆雄	対話	元三井金属鉱業㈱　執行役員	S50 工
13	廣重　勝彦	F ゼミ	一般社団法人日本社債調査センター　代表理事	S57 法
14	玉城　英彦	G 基礎	北海道大学名誉教授	S53 疫博
15	佐々木亮子	対話	㈱アークス　取締役、元北海道副知事	S47 法
16	萩野　　泉	F ゼミ	㈱電通クロスブレイン　データユーティリゼーション１部　部長	H22 薬 H27 博・保健科学
17	松尾　　望	F ゼミ	一般財団法人　知的財産研究教育財団　知的財産研究所　上席研究員	S57 工 S59 工修
18	森　　順子	CDS ／対話	㈱ハッピーアロー代表取締役	H28 教修
19	戸田　守道	A ゼミ	戸田建設㈱　執行役員　副社長	S58 工
20	藤田　信良	CDS	一般社団法人　セレッソ大阪スポーツクラブ ㈱セレッソ大阪　取締役相談役	S48 水産
21	三村　直己	CDS	フリーコンサルタント	S57 理
22	工藤　文粛	A ゼミ	双日㈱　北海道支店　支店長	S58 工
23	日野　峰子	CDS	アイ・エス・エス・インスティテュート東京校 通訳者養成科講師・顧問	S59 文
24	石川めぐみ	CDS、F ゼミ	CJ コミュニケーション代表	H2 文
25	村山　和佳	A ゼミ	㈱ズコーシャ　技術部課長	H7 農

（注）「F ゼミ」＝フェローゼミ、「CDS」＝セルフキャリア発展ゼミ、「A ゼミ」＝アドバンストゼミ、「対話」＝対話プログラム、「国際」＝国際インターンシップ、「G 基礎」＝グローバル基礎科目

(9) メンター

No.	氏　名	現職（元職を含む）	卒年等
1	中原　　拓	メタジェンセラピューティクス㈱　代表取締役社長	理・D
2	佐伯百合子	㈱資生堂　研究員	生命・M
3	藤井　幸大	サンマルコ食品㈱　専務取締役マーケティング本部長（兼）営業本部長	カリフォルニア州アカデミーオブアート大学・B
4	和田　義明	衆議院議員	早稲田・B
5	中島　　徹	15th Rock Ventures/Spirete, Inc. Founder& General Partner　代表取締役	工・M
6	石川　憲一	スリーエムジャパン㈱　取締役　常務執行役員	工・M
7	Eric Ofosu-Twum	Hitachi Ltd Researcher	総化・D
8	萩野　　泉	㈱電通クロスブレイン　データユーティリゼーション１部部長	保健・D
9	Abhijeet Ravankar	Kitami Institute of Technology Assistant Professor	工・D
10	山下　直樹	財務省　主計局主査	公共・M
11	黒田　垂歩	レオファーマ㈱　R & D Asia-Pacific Hub Senior Director	薬・D
12	前田　美紅	㈱ニトリホールディングス　人材教育部　ニトリ大学事務局グローバル教育チーム	文・M
13	長堀　紀子	北海道大学人材育成本部　特任教授、 遠友ファーマ㈱　代表取締役 CEO	理・D

令和４年 11 月５日（土）新渡戸カレッジ（大学院教育コース）入校式校長代理挨拶

（10）執行部会構成員

No.	氏　名	職　　名
1	弥　　和　順	副校長、副学長、文学研究院教授
2	小　田　　研	教頭、理学研究院教授
3	髙　橋　　彩	副校長補佐、副理事、高等教育推進機構国際研究部長、同機構教授
4	谷　　博　文	副校長補佐、工学研究院准教授
5	的　野　裕　司	教育推進課長
6	佐　藤　浩　司	教育推進課　新渡戸カレッジ推進事務室長

（11）学部定例会構成員

No.	氏　名	担　当（所属等）
1	弥　　和　順	副校長（副学長・大学院文学研究院教授）
2	髙　橋　　彩	学部教育コース　副校長補佐・企画部長・海外留学・キャリア支援・行事企画・広報（副理事　高等教育推進機構　教授）
3	佐々木　　啓	全学教育部長（大学院文学研究院教授）
4	亀　野　　淳	全学教育科目（大学と社会）・学部教育コース　キャリア支援・行事企画（キャリアセンター長　高等教育推進機構　教授）
5	ラフェイ，ミシェル ケイ	学部教育コース　授業「国際交流科目」実施・行事企画・広報（大学院文学研究院教授）
6	野　澤　俊　介	学部教育コース　授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構　准教授）
7	江　本　理　恵	学部教育コース　新渡戸ポートフォリオ（高等教育推進機構　准教授）
8	内　田　治　子	学部教育コース　対話プログラム・行事企画・広報（高等教育推進機構特任准教授）
9	山　畑　倫　志	学部教育コース　授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構　講師）
10	畑　中　貴　美	学部教育コース　授業「新渡戸学（フェローゼミ）」実施・行事企画（高等教育推進機構　特任講師）
11	肖　　蘭	学部教育コース　授業「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施・海外留学（高等教育推進機構　特任講師）
12	シュルーター 智子	学部教育コース　授業「グローバル基礎科目」「新渡戸学（アドバンストゼミ）」実施・行事企画（高等教育推進機構　特任助教）
13	菅　原　暢　廣	学務部国際交流課長
14	内　田　めぐみ	学務部国際交流課長補佐
15	佐　藤　浩　司	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室　室長
16	日　置　浩　一	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ担当
17	上　田　しのぶ	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ担当

（12）大学院実行部会構成員

No.	氏　名	所　属　等
1	弛　　和　順	副校長（副学長・大学院文学研究院教授）
2	小　田　　研	教頭（理学研究院教授）
3	谷　　博　文	副校長補佐（工学研究院准教授）
4	島　田　和　久	特任准教授（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
5	繁　富　香　織	特任准教授（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
6	王　　倩　然	特任助教（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
7	佐　藤　浩　司	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（室長）
8	細　田　淳　子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（係長）
9	五十嵐　麻　里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（特定専門職員）
10	髙　橋　悦　子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（事務補佐員）
11	中　嶋　奈津子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（事務補助員）

（13）大学院教育コース授業担当教員

No.	氏　名	ターム	役職・所属等
1	大学院基礎科目Ⅰ	春	島　田　和　久　新渡戸カレッジ教育研究部特任准教授
			繁　富　香　織　新渡戸カレッジ教育研究部特任准教授
2	大学院基礎科目Ⅱ	夏	伊　藤　秀　臣　理学研究院准教授
			橋　本　勝　文　工学研究院准教授
3	大学院基礎科目Ⅰ	秋	島　田　和　久　新渡戸カレッジ教育研究部特任准教授
4	大学院基礎科目Ⅱ	冬	三　浦　篤　志　理学研究院准教授
5	大学院発展科目Ⅰ	春	ピーター，シェーン　北海道大学病院准教授
6	大学院発展科目Ⅱ	夏	池　　炫　周　公共政策学連携研究部講師
7	大学院発展科目Ⅰ	秋	ハズハ，プラニスラウ　　法学研究科教授
8	大学院発展科目Ⅱ	冬	コーカー，ケイトリン　クリスティーン　文学研究院准教授

（14）学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室

No.	氏　名	職　　名
1	的　野　裕　司	教育推進課長
2	芳　岡　　洋	教育推進課課長補佐
3	佐　藤　浩　司	新渡戸カレッジ推進事務室長
4	日　置　浩　一	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(学部)担当　特定専門職員
5	上　田　しのぶ	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(学部)担当　特定専門職員
6	五十嵐　侑　美	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(学部)担当　事務補佐員
7	細　田　淳　子	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(大学院)担当係長
8	五十嵐　麻　里	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(大学院)担当特定専門職員
9	髙　橋　悦　子	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(大学院)担当　事務補佐員
10	中　嶋　奈津子	新渡戸カレッジ推進事務室　新渡戸カレッジ(大学院)担当　事務補助員

令和４年 11 月２日（水）新渡戸カレッジ特別講演会（寶金校長）

5　新渡戸カレッジ学部教育コース及び大学院教育コースの概要

（1）学部教育コース

新渡戸カレッジの学部教育コースは、本学の四つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、新渡戸稲造の精神に基づきながら、各学部の専門教育において高い専門性を修得するとともに、学部横断的な特別教育プログラムを通して、以下に記す力を身につけ、それらを発揮できる人材を育成することを目標としている。

- 自分に対する力（コミュニケーションツールとしての英語力、さまざまな文化的・社会的背景に根ざしたアイデンティティなど）
- 他人に対する力（グローバル社会で必要とされるリーダーシップ、チームワーク力など）
- 社会に対する力（異なる文化状況下における問題発見力・課題解決力、社会的な責任と倫理）

また、国際社会で活動するリーダーに必要な基本的スキルセットとマインドセットを育成する。

基本スキルセット

- 専門知
- 外国語運用能力
- 情報リテラシー
- プレゼンテーション力
- ディベート力

マインドセット

- 責任感
- 情熱
- リーダーシップ
- 困難に立ち向かう勇気
- 謙虚

新渡戸カレッジでは、この目標とする人材像に求められる具体的な能力基準を定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に国際的に通用する新渡戸カレッジの修了証を授与する。

(2) 大学院教育コース

新渡戸カレッジの大学院教育コースは、北海道大学のすべての修士課程及び専門職学位課程に在籍する学生を対象に、創造的・批判的思考能力やリーダーシップ、課題解決・問題発見能力を涵養することを目的にした特別教育プログラムである。

大学院教育コースの目的は、「多様な社会的・文化的背景を有する人々とチームを形成し、グローバル社会のなかで生じるさまざまな問題を予測・発見・解決し、新たな社会的価値の創造に貢献する、高度な専門性と、専門家としての崇高な倫理観を持った人材」を育成することである。この人材に求められるのは、それぞれの専攻で修得する高度な専門性に加えて、

1　その専門性を、直面する問題に即して、さらに高度化し、アップデートし続ける力（能力更新力）
2　その力を一つのチームに集結し、問題解決をもたらす力（組織形成力）
3　協働の成果を社会に還元しつつ、社会的価値を創造し、必要な社会変革をもたらす力（社会還元力）

が必要となる。さらに、こうした力の行使は、専門家としての倫理観（専門職倫理）に裏打ちされていなければならない。大学院教育コースは大学院課程で学んだすべてのグローバル人材がこの様な普遍的能力を有するべきと考え、その能力を「3+1 の力」として定義したものである。

大学院教育コースは、この「3+1 の力」を育成し、様々な知識、技能、経験、価値観を持つメンバーから構成されるチームにおいて、コミュニケーションを十分に取ることで相互理解を深め、課題解決に向けて自身の持つ専門的能力を最大限に生かすことができる人材を養成するものである。

6　令和４（2022）年度新渡戸カレッジ行事一覧

月	学部教育コース		大学院教育コース	
	日(曜日)	行事	日(曜日)	行事
3	2/28(月)～4(金)	〈オナーズプログラム入校募集期間〉	14(月)	〈オナーズプログラム入校募集開始〉
	1(火)～11(金)	〈基礎プログラム２年次入校募集期間〉	22(火)	〈基礎プログラム入校募集開始〉
	28(月)8：30	オナーズプログラム入校者発表		〈オナーズプログラム入校受付終了〉
4	1(金)～8(金)	基礎プログラム１年次入校募集期間	4(月)	第１回基礎プログラム入校説明会(日本語)
	6(水)	北海道大学入学式	5(火)	第２回基礎プログラム入校説明会(英語)
	8(金)16：00～	基礎プログラム１年次入校説明会(大講堂)	10(日)	〈基礎プログラム応募受付終了〉
	11(月)	第１学期総合教育部授業開始	13(水)12：00	オナーズプログラム入校者発表
	12(火)12：00	基礎プログラム入校者発表	13(水)～20(水)	オナーズプログラム入校確認書提出期間
	16(土)	英語(TOEFL-ITP)試験	15(金)～17(日)	英語(TOEIC-IP)試験実施(オンライン)
	21(木)18：15～	オナーズプログラム入校者ガイダンス(対面：N1)	20(水)	オナーズプログラム春ターム授業開始
	22(金)18：15～	オナーズプログラム入校者ガイダンス(OL)		
	23(土)～5/1(日)	第１回対話プログラム		
5			6(金)12：00	基礎プログラム入校者発表
			6(金)～11(水)	基礎プログラム入校確認書提出期間
	14(土)14：30～15：25	新渡戸カレッジ入校式(学部)	14(土)14：00～14：25	新渡戸カレッジ入校式(大学院：春入校)
	18(水)18：15～19：45	第１回特別講演会		基礎プログラム春ターム授業開始(合同)
	20(金)15：30～16：30	第１回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会(OL)		
	20(金)17：00～18：00	第１回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	20(金)17：00～18：00	第１回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
	28(土)	第１回セルフキャリア発展ゼミ		
6			8(水)	オナーズプログラム春ターム授業終了
	15(水)18：15～19：45	第３回特別講演会(プレセッション)	15(水)	オナーズプログラム夏ターム授業開始
			18(土)	第１回メンターフォーラム
				基礎プログラム春ターム授業終了
	25(土)・26(日)	第２回セルフキャリア発展ゼミ(深川合宿)	21(火)	基礎プログラム夏ターム授業開始
7	2(土)～10(日)	第２回対話プログラム		
			27(水)	オナーズプログラム夏ターム授業終了
			28(木)	基礎プログラム夏ターム授業終了
8	7(日)	オープンキャンパス(学術交流会館　新渡戸カレッジ説明会、相談会)		
	8(月)～9.30(金)	総合教育部夏季休業		
9	1(木)	第１回アドバンストゼミ		
	10(土)	第２回アドバンストゼミ	13(火)	春・夏ターム成績公開
	21(水)	基礎プログラム正式入校者発表	14(水)	〈基礎プログラム・オナーズプログラム入校募集開始〉
	21(水)～23(金)	第３回アドバンストゼミ(十勝合宿)	20(火)	〈オナーズプログラム応募受付終了〉
	24(土)	第４回アドバンストゼミ	中旬～下旬	新渡戸カレッジ(大学院教育コース)修了式(9月修了)
	27(火)	第２回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	27(火)	第２回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
			30(金)	第１回基礎プログラム入校説明会(日本語)
10	1(土)	第１回フェローゼミ		
		第５回アドバンストゼミ		
	3(月)	第２学期総合教育部授業開始	3(月)	第２回基礎プログラム入校説明会(英語)
	4(火)	第４回新渡戸カレッジ特別講演会	4(火)	〈基礎プログラム応募受付終了〉
	8(土)・9(日)	第３回対話プログラム	12(水)12：00	オナーズプログラム入校者発表
			12(水)～19(水)	オナーズプログラム入校確認書提出期間
			14(金)～16(日)	英語(TOEIC-IP)試験実施(オンライン)
	15(土)	第２回フェローゼミ(現地視察)	19(水)	オナーズプログラム秋ターム授業開始
			26(水)12：00	基礎プログラム入校者発表
			26(水)～31(月)	基礎プログラム入校確認書提出期間
	29(土)	第３回フェローゼミ		
11	2(水)18：15～19：45	特別講演会	5(土)	新渡戸カレッジ入校式(大学院：秋入校)
	12(土)	第４回フェローゼミ		基礎プログラム秋ターム授業開始
	26(土)	第５回フェローゼミ		
		第６回アドバンストゼミ		
12	3(土)・4(日)	第４回対話プログラム	7(水)	オナーズプログラム秋ターム授業終了
	3(土)	英語(TOEFL-ITP)試験		
	10(土)	公開シンポジウム成果発表会・振り返り会	14(水)	オナーズプログラム冬ターム授業開始
		フェロー交流ランチミーティング	17(土)	第２回メンターフォーラム
	17(土)	セルフキャリア発展ゼミフォローアップ		基礎プログラム秋ターム授業終了
	29(木)～1.4(水)	総合教育部冬季休業	22(木)	基礎プログラム冬ターム授業開始
1	5(木)	総合教育部授業再開		
2	5(日)	第２回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会(振り返り会)(OL)	1(水)	オナーズプログラム冬ターム授業終了
			4(土)	基礎プログラム冬ターム授業終了
	6(月)	第２学期総合教育部授業終了	16(木)	秋・冬ターム成績公開
	27(月)	第３回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	27(月)	第３回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
	27(月)～3/3(金)	〈オナーズプログラム入校募集期間〉		
3	1(水)～11(土)	〈基礎プログラム２年次入校募集期間〉	13(月)	〈オナーズプログラム入校募集開始〉
			20(月)	新渡戸カレッジ(大学院教育コース)修了式
	23(木)	学位記授与式(札幌)	22(水)	〈基礎プログラム入校募集開始〉
		新渡戸カレッジ(学部教育コース)修了式		〈オナーズプログラム入校受付終了〉
	27(月)8：30	オナーズプログラム入校者発表		

7　新渡戸カレッジ授業概要、特別講演概要、行事概要

（1）学部教育コース

■ 2022 年度　グローバル基礎科目（責任教員：シュルーター智子）

▼「グローバル基礎科目（国際理解と海外留学）」（1 学期　春ターム　火曜 5・6 講時）

【授業の目標】

国際的な研究や留学の経験を持つ講師によるオムニバス形式の講義を通じて、国際理解の重要性と海外留学の意義を学ぶ。国際社会における課題や各研究分野の状況、留学の実態などを知り、自分のキャリアデザインの観点から留学の目的と意義を考えるとともに、今後の留学に向けて主体的・計画的に考え行動できるようになることを目指す。

【授業内容】

第 1 回（4/12）オリエンテーション
第 2 回（4/19）担当：弛　和順（大学院文学研究院）
第 3 回（4/26）担当：玉城英彦（北海道大学名誉教授、新渡戸カレッジフェロー）
第 4 回（5/10）担当：荒井克俊（北海道大学名誉教授）
第 5 回（5/17）担当：樋田京子（大学院歯学研究院）
第 6 回（5/24）担当：井上修平（新渡戸カレッジフェロー）
第 7 回（5/31）担当：児矢野マリ（法学研究科）
第 8 回（6/7）　学生による留学体験談

【履修者数】249 名

▼「グローバル基礎科目（リーダーシップとチームワーク）」（1 学期　夏ターム　火曜 5・6 講時）

【授業の目標】

社会における様々な場面で、周囲の人と協力しながらリーダーシップを発揮することが求められている。各自の調査とグループワークを通じて、望ましいリーダーシップとは何かを考えるとともに、自分たちがリーダーシップを発揮して取り組む課題をチームで決め、調査・検討した上で解決案をまとめて、発表する。

【授業内容】

第 1 回（6/14）オリエンテーション
第 2 回（6/21）グループワーク「リーダーシップを考える①」
第 3 回（6/28）グループワーク「リーダーシップを考える②」
第 4 回（7/5）　課題を見つける（※）
第 5 回（7/12）グループワーク「リーダーシップを鍛える①」
第 6 回（7/19）グループワーク「リーダーシップを鍛える②」
第 7 回（7/26）発表と評価①
第 8 回（8/2）　発表と評価②（※）
（※）札幌市まちづくり政策局との連携授業

【履修者数】247 名

2022 年度新渡戸学（フェローゼミ）実施報告

1．フェローゼミの概要

新渡戸学（フェローゼミ）は新渡戸カレッジ独自の必修科目（1 単位、合否評価）で 2022 度入校の基礎プログラム学部教育コースの学生を対象とした少人数の演習形式の科目である。

(1) 目的

世界が抱えている諸問題について、実際に現地を視察して学ぶとともに、グループワークを通して、学問と社会のあり方や持続可能な社会のあり方を考え、同時にリーダーシップやチームワーク力を身につける。

(2) 目標

①新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。
②自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。
③ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。
④ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。

(3) 内容

●ゼミ担当フェローの他、支援教員、テーマに関連する関係者が協力し、2022 年度は 7 テーマで実施した。10 月 1 日の全体オリエンテーションから始まり、現地視察を含めた全 5 回のゼミ及び公開シンポジウム成果報告会までを感染対策を講じた上で、すべて対面で行った。また、2019 年度まで受け入れていた高校生の聴講はコロナ禍のため、中止した。
●チューターは新渡戸カレッジ 2 年目以上の上級生等があたり、ゼミを支援するチューターは各ゼミにつき 3 名（合計 21 名）、ゼミチューターを統括するコアチューターは 2 名が担当した。フェローゼミにおけるコアチューターの主な役割は担当教員及びゼミ統括フェロー、チューターとの調整やチューターへの指導助言である。
●履修者は 7 ゼミの一つに所属するが、希望者が集中するゼミでは抽選により履修者を決定した。
●公開シンポジウム成果報告会は、フェローゼミ、アドバンストゼミの成果報告や意見交換を通じて視野を広げ、知識を深めることに重点を置くことを目的として 12 月 10 日に実施した。2021 年度からの変更点は、発表時間の延長（12 分→ 15 分）、質疑応答時間の延長（7 分→ 8 分）である。質疑応答は 2021 年同様、Slido（イベント等で Q & A など参加者との双方向コミュニケーションに役立つ機能を提供している Web サービス）を利用した。また、学生大賞（フェローゼミ履修生の投票で決定）も引き続き実施した。講評では、ゼミ統括の多田幸雄フェローとコアチューターの 2 名で各ゼミについて感想を述べるという新しい試みが行われた。その他、オナーズプログラム、学生企画プログラム紹介の時間を取り、担当学生によるプレゼンが行われた。シンポジウムの様子はライブ配信を行い、フェローゼミ関係者をはじめ、新渡戸カレッジフェロー、高大連携の高校に視聴案内を送付した。

●公開シンポジウム成果報告会の録画映像、発表スライド、発表要旨は学内のシステムを利用し、履修者、チューター及びフェローゼミ担当フェロー・支援教員に共有した。

(4) 2022 年度新渡戸学（フェローゼミ）とそのテーマ

ゼミ名	テーマ	履修者
石川めぐみフェローゼミ	ポストコロナの観光～よりスロウで学びのある旅へ	29 名
石川裕一フェローゼミ	グローバリゼーションの終焉の中での我が国の安全保障と教育	25 名
伊藤慎フェローゼミ	酪農・乳業の未来を考える	28 名
大友俊彦フェローゼミ	持続的な健康促進、未来の生き方を考える	25 名
萩野泉フェローゼミ	メディアコミュニケーションの視点からみる持続可能な発展	28 名
廣重勝彦フェローゼミ	スタートアップを通じて社会課題の解決にチャレンジする	28 名
松尾望フェローゼミ	「競争と協業」で「持続可能な社会」の実現を目指す	24 名

2. フェローゼミの実施経過

日　程	内　　容	参加人数	備　　考
5/13（金）	フェローゼミ打ち合わせ		Zoom で実施
7/ 8（金）	チューター募集開始		
7/14（木）	フェローゼミ募集開始		
7/28（木）	チューター採用決定		21 名を採用（1 ゼミ 3 名）
9/20（火）	チューター事前説明会		対面で実施
9/21（水）	所属ゼミ発表		
9/16（金）	フェローゼミ打ち合わせ		Zoom で実施
10/ 1（土）	全体オリエンテーション 第 1 回フェローゼミ	172 名	
10/15（土）	第 2 回フェローゼミ	176 名	現地視察（現地視察を実施しないゼミ、別日程で実施したゼミもあり）
10/29（土）	第 3 回フェローゼミ	165 名	一部ゼミは別日程で実施
11/12（土）	第 4 回フェローゼミ	149 名	一部ゼミは別日程で実施
11/26（土）	第 5 回フェローゼミ	163 名	一部ゼミは別日程で実施
12/10（土）	公開シンポジウム成果報告会 ゼミ別振り返り	153 名 144 名	フェローゼミ、アドバンストゼミの発表、オナーズプログラム紹介、講評、学生大賞表彰

（参考）

正式入校生：192 名（1 年次 178 名、2 年次 14 名）

ゼミ履修者：187 名（1 年次 174 名、2 年次 13 名）

（第 1 希望：147 名、第 2 希望：27 名、第 3 希望以下：13 名）

合格　　：

不合格　　：

チューター：21 名（大学院 3 名、学部 18 名）

コアチューター：2 名（大学院 2 名）

2022 年度アドバンストゼミ実施報告

【アドバンストゼミとは】

新渡戸学（アドバンストゼミ）は、オナーズプログラム学部教育コースの学生を対象とした選択科目で少人数演習形式の科目である。2018 年度に新設された授業科目であり、1）リサーチ能力、2）コミュニケーション能力、3）自律的な学びを身につけることを目的とする。新渡戸カレッジ独自科目として、1 単位（合否による評価）で開講される。

【参加者】

○学生　　：7 名（2 年生 6 名、3 年生 1 名）
○チューター：9 名
○フェロー　：工藤 文粛・柴田 哲史・戸田 守道・村山 和佳（50 音順）
○教職員　　：弛 和順・肖 蘭・シュルーター 智子・上田 しのぶ

【今年度の実施状況について】

今年度のアドバンストゼミは、前年度の履修生の一部がチューターとしてゼミに参加し、中心となって企画を行った。その企画内容は下記の通りである。

チューターによるアドゼミ企画	
テーマ	その場でできることをやってみる ～僕ら世代が自然・地域・人を理解するために～
目的	①自然・地域を持続可能にするための取り組みを理解して新たなアクションを起こす ②アクションをする上で基盤となる自身の軸を形成していく
到達目標	①課題を発見し、解決法を考えて実行し、発信する ②自分に合ったパーソナリティ（個性）を発見し、自分に合った能力を身につける ③他者を理解し、自分の価値観を相対化する

上記の企画をもとに、7 月に訪問調査、9 月上旬に 2 回の事前授業を対面で、9 月 21～23 日に 2 泊 3 日の十勝合宿を実施した。11 月 6 日に、履修生が中心となって、合宿での学びを活かして、学生企画「私たちが考える北大の自然」を実施した。12 月 10 日の公開シンポジウムでは、今年度のゼミの内容についての紹介とゼミでの学びを振り返った。

【スケジュール】

○十勝訪問調査（7 月 15 日）教員・チューターとともに合宿訪問予定先を下見、関係者と打ち合わせ。
○第 1 回授業（9 月 1 日）・自己紹介、オリエンテーション、ゼミ企画案の概要及び意義についてグループワーク
○第 2 回授業（9 月 10 日）各フェローから講話、戸田フェローによる講義。
○第 3 回授業（9 月 21 日～23 日合宿）高野ランドスケーププランニング・赤嶺氏、千年の森で作業、共働学舎・宮嶋氏の講話とグループワーク等
○第 4 回授業（9 月 24 日）・学生企画の最終案作成及びチューター会議。
○第 5 回授業（10 月 1 日）・学生企画最終案発表
○ 11 月 6 日　学生企画実施
○第 5 回授業（11 月 26 日）学生企画実施の振り返り・シンポジウム発表まとめ
○公開シンポジウム（12 月 10 日）

【ゼミの様子】

○事前授業（9 月 1 日）

○合宿（9 月 21 日～23 日）

⇧高野ランドスケーププランニング

⇧十勝千年の森

⇧共働学舎

⇧学生企画

2022 年度「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施報告

【実施目的】

セルフキャリア発展ゼミは、合宿を含む継続的なセミナーであり、日常とは異なる空間での自己の洞察、仲間（新渡戸カレッジ生とフェロー）とのコミュニケーション、アクティブラーニングを通して、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的とする。

【目標】

・新渡戸カレッジ生が社会の現状を認識し、社会との関連のなかで自分自身の可能性を認識し、自らの未来を構築していく力を身につける。
・学生が自ら目標を設定し、実現に向けたプロセスを考え、実行する。また、教員とフェローの助言を受けながら確認し、継続的に取り組む。
・新渡戸コミュニティにおける教員、フェロー及び学生同士のコミュニケーションから、学生が自分の目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得る。
・持続的な取り組みを通して、将来社会や組織のリーダーに成長するための基本的な考え方とスキルを習得する。

【2022 年度実施状況】

今年度のセルフキャリア発展ゼミは、5 月 28 日に学内で第 1 部、6 月 25 日～26 日に北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川で合宿を実施した。5 月のゼミでは、フェローによる講話のほか、札幌市町田隆敏副市長による「公務員のキャリアデザイン」についての特別講演を実施した。

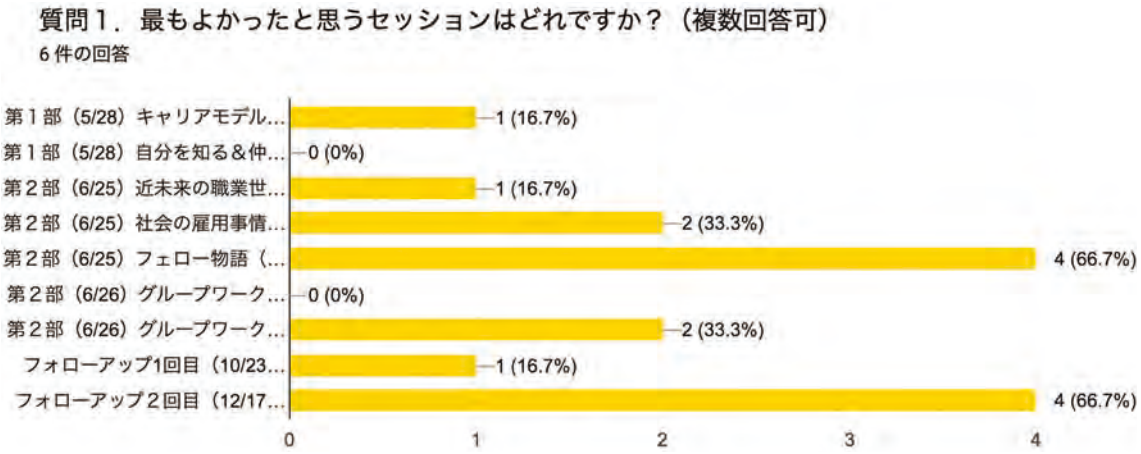
日　　時	内　　容	参加者内訳（順不同・敬称略）
5 月 28 日	ゼミ第 1 部 （学内対面）	教員 4 名、フェロー 7 名、札幌市 3 名 チューター 2 名、履修学生 31 名
6 月 25 日～26 日	ゼミ第 2 部 （学内対面）	教員 3 名、フェロー 7 名 チューター 2 名、履修学生 31 名
10 月 23 日	フォローアップゼミ （学内対面・任意参加）	チューター 2 名、履修学生 9 名
12 月 18 日	フォローアップゼミ （学内対面・任意参加）	教員 2 名、フェロー 6 名 チューター 2 名、履修学生 10 名

＊履修学生内訳：2 年生 25 名、3 年生 5 名、4 年生 1 名

【2022 年度セルフキャリア発展ゼミの様子】
○第 1 部（5 月 28 日）

○第 2 部（6 月 25 日・26 日）

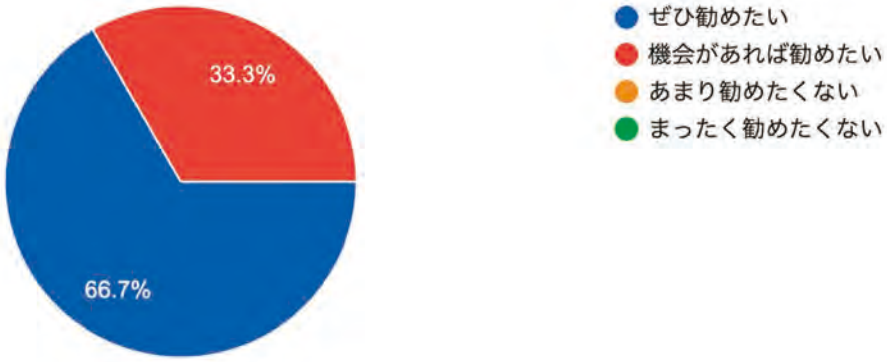
【2022 年度セルフキャリア発展ゼミアンケート・一部抜粋】



【質問 1】の答えを選んだ理由を説明してください。
一番「生」のお話が聞けて貴重な経験だったから。
フェローから人生について詳しくお話を聞けてよかった　目標を立てることで具体的に行動できたのでよかった。
充実した話合いができて、来年の留学に具体的なビジョンを持つことができたから。

フェローのお話を参考にして、自分の目標を立ててることができたから。実際に実行してみて、生じた課題について相談することができたから。
社会で活躍されるフェローの方々から実際の雇用事情やこれまでの経験をお聞きできたから。また最後のフォローアップまでやり遂げられたことで、自分の半年を見直し次何をしていくべきかをはっきりさせることができたから。
キャリアの実体を知れた。

質問７．ほかの学生にもCDSの履修を勧めたいですか？
6 件の回答



【質問 7】の答えを選んだ理由を説明してください。
万人に必要という訳ではないけれど、意欲のある人、悩んでいる人にはピッタリだと思うから。
目標を立てたので実行できたところが大きいと思うから。
自分のキャリアについて北大の先輩にアドバイスをいただきながら考えることができるから。
学部を超えて色々な友達が出来ることと、フェローから貴重なお話がたくさん出来るから。
フェローと深く話せる貴重な機会だしモチベの維持に繋がる。

【来年度について】
　基本的に今年度と同じ要領で合宿を含めて実施し、また、セルフキャリア発展ゼミの OB・OG 数名に合宿に参加してもらう予定である。

2022 年度 新渡戸カレッジ対話プログラム 実施報告

報告事項

- オナーズ生 60 名（新規 35 名）が参加し、10 名の担当フェローと 1 対 1 の対話を行った。
- 年 4 回の面談（オンラインを含む）に加え、一部の希望者を対象に月 1 回程度の文章のやりとりを行った。
- 4 回目の参加学生のアンケート調査（参加者 23 名中 17 名が回答）で、経験を積んだ対話フェローと継続的に一対一の対話を行うことで得られる効果を確かめることができた（「補足資料」参照）。
- 来年度（最終年度）も今年度と同じフェローにお願いして 4 回実施する。

〈補足資料〉

2022 年度対話プログラム参加状況・アンケート結果について

対話参加状況

登録した 82 名（新規 51・継続 31）のうち 7 割程度の 60 名（新規 35・継続 25）が実際に参加した。参加者は初回が最も多く、3 回目が最も少なかった（**図 1**）。新規・継続とも参加者の半数近くが 2 回以上参加した（**図 2**）。

図 1

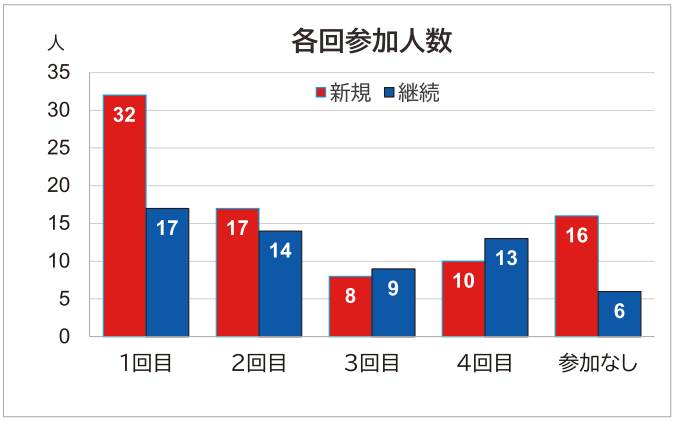
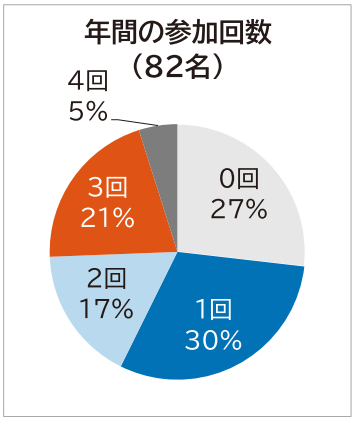


図 2



アンケート回答者数

第4回終了後、参加者23名のうち17名（新規8名、継続9名）が回答した（78%）。

最も良いと思ったフェロー

これまで対話をしたフェローのうち最も良かったと思った方について、どういう点が良かったかを聞いたところ、自分に合わせた対話をしてもらえた、話し方や内容が良かった、気づきが得られた、などの答えがあった（**表 1**）。

表 1　特に良いと思ったフェローについて、どういう点が良かったか（自由記述）

自分に合わせた対話をしてもらえた

- 対話プログラム以外でもお世話になったフェローであり、以前から知っていただいていたというのはあるが、対話の際、特によく自分に向き合っていただいたなという印象がある
- 私に合わせたアドバイスをくださったため
- 親身になって話を聞いてくださった
- 進路の相談に親身になってのっていただき、方向性を明確にできたため

〈補足資料〉

話し方・内容が良かった

- 話し方など、圧倒されることができたから
- 対話の内容に限らず、話し方の質が高く、そこでの学びもあったから
- 余裕のある話し方に引き付けられることに加え、会話の内容も今までのご自身の経験に基づいた大変ためになるお話で、こちらがはっとするような意見を頂けるから
- 地上波放送で流れている報道とは異なる目線・視点の議論ができる
- 長期休みの使い方の相談をした時いろいろな選択肢を教えてくださったから
- 他のフェローと違って冷や汗をかくほど、時に厳しい対応をしてくれる。トップ企業で働く人からこのような指導を受ける機会はあまりないと思うし、厳しさの中にやさしさもあり、「学生気分」を払拭できるのかなと思う
- 雑談のようなノリでサッカーの話から学生生活や進路の問題についてカジュアルに話すことができる
- 事前に相談したいこととして挙げた事項に対して、様々な選択肢を示しながら適切なアドバイスをくださったから
- 現実的なことを厳しく客観的に述べてくれる
- 自分の考えや信念があってそれを伝えてくれるが、押し付けてはこないから
- 自分が聞いたことに対して、的確な答えが返ってくるため
- 話を広げてくださったり深めてくださったりして、話しやすいし、頭の中が整理される

気づきが得られた

- 毎回の対話で新たな視点に気づくことができたため
- リーダーとは何かについて気づきを与えてもらった

その他

- 継続して対話を続けることができた
- 対話プログラム外でも、新たなことに挑戦する機会を与えてくださったため
- 趣味が合う（サッカー）

来年度の参加

今後も対話プログラムに参加したいと思うかどうかについて「参加したいと思う」「参加したいとは思わない」「わからない」のいずれかを選択する形で聞いたところ、回答者全員が「参加したいと思う」と答えた。理由として、今年度話したフェローとの対話を続けたい、対話の経験が自分のためになっていることが実感できている、通常できない経験をすることのできる貴重な機会だから、などの回答があった（**表 2**）。

〈補足資料〉

表 2　来年度も参加したいと思う理由（自由記述）

今年度話したフェローとの対話を続けたいから

- これからも進路などに迷ったときにお話させていただきたいフェローの方々がいるため
- 今年度お世話になったフェローから継続して、お話を伺いたいと思う。アドバイスいただいたことを実践して、ご報告したい
- まだまだ話したりないと感じるから。もっと対話を積み重ねればもっと面白い話ができるという確信があるから

自分のためになっているから

- 普通の大学生活をしていたら話せないような方々と会話し、学びを得られるから
- 考え方を知ることができて、今まで悩んでいたことから前に進むことができる気がしたから
- 毎回、とても内容の濃い対話ができており、自分のためになっていると感じているから
- 進路や将来についていろいろな選択肢を聞けると感じたから
- 自分の知らないことや新たなアイディアなどを頂けるため
- 人と話すことで自分の考えがまとまるため
- 世界情勢や社会情勢の変化、自分自身の変化を継続的な対話プログラムを通して気づくことができる。また、その変化が新しい話題を生み出すことができる
- 今後の成長に伴ってまた対話の話題ができ、そうして継続することには価値があると思うから
- 対話プログラムは成長を見せる場でもあり、自分が成長した後にこそもっと濃い内容の対話ができると思う。なので、留学帰国後の最後の年こそもっと有意義な対話がしたい。

貴重な機会だから

- 普通の大学生活をしていたら話せないような方々と会話し、学びを得られるから
- 普段はお会いできない方と一対一で話せるのはとても貴重な機会だと思うから
- 大人とはなせるいい機会であるから
- フェローのお話を1対1でできる機会はこれしかなく、もっと学びたいから
- 貴重な経験だし、自信が持てるから

意見・感想

プログラム全体についての意見・要望・感想を聞いたとところ、今後も対話プログラムに参加したいと思うかどうかについて「参加したいと思う」「参加したいとは思わない」「わからない」のいずれかを選択する形で聞いたところ、回答者全員が「参加したいと思う」と答えた。

〈補足資料〉

理由として、今年度話したフェローとの対話を続けたい、対話の経験が自分のためになっていることが実感できている、通常できない経験をすることのできる貴重な機会だから、などが挙げられた（**表 3**）。

表 3　プログラム全般についての意見・要望・感想（自由記述）

良かったと思うこと

- フェローとお話しして、新たな視点から自分の問題を解決しようと思うようになりました。このような機会を設けていただきありがとうございました
- 普段会えない方たちと、１対１で対話出来てとても満足しております。ありがとうございました
- 最後に一度だけ対面で対話できて、とても楽しかったです。来年はぜひたくさんのフェローと対面でお話しできればと思います

要望・提言

- 前もって日程を決めることは、両者の日程を確定するために必要だと感じますが、直前であっても可能なら申し込むことができたりするとより申し込みやすいというふうに感じた
- ３年間でおそらく全てのフェローとお話しさせていただき、対話フェローの中にも、「話したい人」と「聞きたい人」がいる、というのが率直な感想です。無論、フェロー程の方は皆、聞く力も話す力も備えているが、良い悪いの話ではなく、学生に対して自分の経験を伝えたいという対話と、学生から自分も学びを得たいという対話があると思います。そしてそれは学生にも当てはまり、フェローに何か相談して話を聞きたいという対話と、話すことで自分の考えを整理してフィードバックを受けて深掘りしていく対話がある、というのは参加者の多く言えることでしょう。そこで、アンケート項目に、相手の話を聞けてよかったか自分の話ができてよかったか対話の内容を対比的に分析するような質問、話す/聞くの割合などを加え、それらを学生が対話フェローを選択する際に活用することで、双方のニーズを適切に満足させられるように思いました。選択肢過多効果ではないですが、学生に提示する場合はレーダーチャートではなく、先の指標にもう一つ軸を追加してマトリックスとして示すのがいいと考えられます。（また、「話したさ」とフェローの年齢や他の指標との相関も解析してみると面白い結果が得られそうです。）時代や価値観が違い、生存バイアスもあるため、学生側が聞く主体の対話には注意が必要ですが、そのケースでは30 or 60分対話を続ける話題を提供することができない学生にも問題があり、過度の介入は多様性や自由度も損なうため、システムを変えるのではなく、その外縁で、過去の学生の対話に基づくマッチングの情報開示や、可能なら上級生による推薦があると、より良い対話が実現できるのではないかと思います

〈補足資料〉

その他

- いつもお世話になっております。締切ギリギリになったり対話メモ書かなくてすみません。振り返りのメモはした方が絶対にいいと実感しているのですが、出さなくて申し訳ございません。今年もありがとうございました。来年もよろしくお願い申し上げます

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S12

テーマ		ポストコロナの観光～よりスロウで学びのある旅へ
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		石川　めぐみ（いしかわ　めぐみ）
支援教員		ミシェル・ラフェイ　大学院文学研究院教授
キーワード		ポストコロナ　観光　旅行　少人数化　テーマ　学び　体験観光 アドベンチャートラベル
目的		コロナ禍において抑制されてきた旅行が本格的な解禁を迎えようとしていますが、国内外の旅行者の意識はこの2年余りで変化を見せており、迎える側もこれを前提とした対応が求められます。ポストコロナ時代の旅のありようを探り、北海道にとっても重要な産業である旅行・観光業の今後に向けての提案を考えます。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■自己紹介　ガイダンス（ゼミの目的、スケジュールなど説明） ■講義　「変化する旅の形～インバウンドを中心に」石川めぐみ
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】 ■グループ分け、リーダー選出 ■グループディスカッション　講義を基に課題の仮抽出　方向付けなど
	（自主準備）	●講義内容と参考資料を基に、今後の旅行業に求められるものは何かについて各自考えておく
	第２回 10月15日 （土）	第3コマ（ 10 : 00 ～12 : 00 ）：【現地視察】 ■北海道開拓使時代の名残が見られる創成イースト一帯を視察 NPO法人 エコ・モビリティーサッポロ 代表理事　栗田敬子氏によるご講義
		第４コマ（ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■グループごとに現地視察を終えての振り返りディスカッション
	（自主準備）	●現地視察を基に、自分が感じた課題についてのレポートを提出
	第３回 10月29日 （土）	第５コマ （ 10 : 30 ～12 : 00 ）： ■グループディスカッション　グループの課題の確定
		第6コマ（ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■グループディスカッション　課題に沿った発表内容の大筋組み立て
	（自主準備）	●チームごとに関連の情報収集、中間発表の準備
	第４回 11月12日 （土）	第７コマ （ 10 : 30 ～12 : 00 ）： ■中間発表　各グループごとに発表　全体での意見交換
		第８コマ （ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■中間発表で出た質問や意見を踏まえてのブラッシュアップ・調整
	（自主準備）	●チームごとに発表内容の準備
	第５回 11月26日 （土）	第９コマ （ 10 : 30 ～12 : 00 ）： ■成果報告会に向けての内容準備
		第10コマ （ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■成果報告会に向けての内容準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（10:00～16:30予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー 】 （大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（16:40～17:40 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		観光庁「観光を取り巻く現状及び課題等について」https://www.mlit.go.jp/kankocho/iinkai/content/001461732.pdf ほくとう総研「アフターコロナの観光戦略」http://www.nett.or.jp/nett/pdf/nett114.pdf 日本交通公社「北海道、コロナ禍の克服とインバウンド再興へのシナリオ」https://www.jtb.or.jp/tourism-culture/bunka247/247-04/ 北海道「第５期 北海道観光のくにづくり行動計画」http://inbound-jp.info/wp-content/uploads/2021/11/p02-005.pdf
備考：		

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S3

テーマ		グローバリゼーションの終焉の中での我が国の安全保障と教育
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		石川　裕一（いしかわ　ゆういち）
支援教員		
キーワード		グローバリゼーションの終焉・戦争の背景・自然権・日米関係・地政学・地経学・国民の教育レベル・自衛隊と憲法
目的		グローバリゼーションが崩壊し、ローカリゼーションの思考を基に世界各国が政治経済体制の転換を進める中で、新しい混乱が欧州で現実のものとなった。その中で我が国の安全保障の在り方を考察する。安全保障という言葉の歴史的な意味を考察することにより、私人の安全保障から国家の安全保障への展開を図り、国家の在り方を考察する。東アジアのこれからの地政学的リスク並びに地経学的リスクを合わせて学ぶ。我国が取るべき今後の課題を整理し今後の対応策を検討する。メディア情報を妄信せずに自らの頭で思考する意識を醸成し、自らの思考停止状況を開放する。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 グローバリゼーション終焉の背景・我が国の安全保障の歴史・主権国家の定義・戦争の背景
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】 参加学生の各人の安全保障に関するテーマを選定し、チーム分けを行う。
	（自主準備）	●
	第２回 10月16日 （日）	第3コマ（13 :30　～15 : 00）：【現地視察】現地視察は新型コロナの問題で自衛隊北部方面視察は中止となる。第３コマでは、東アジアの地政学的リスクを考察し、我国の課題並びに取るべき対応に関して議論を進める。 ■
		第４コマ (15：15～16 : 45)：【現地視察】各チームによるテーマ選定後のブレインストーミングを行い課題の解決を図る ■
	（自主準備）	●
	第３回 10月29日 （土）	第５コマ (11　: 00　～12　:30　)：河野元統合幕僚長並びにロバート・D・エルドリッジ元海兵隊幹部による我が国の安全保障の在り方並びに日米同盟・NATO他集団的安全保障の現状並びにウクライナ問題に関する講義を受ける。 ■
		第6コマ（13 :45　～ 15 :30　）：河野氏・エルドリッジ氏によるパネルディスカッションを行い、その後両氏を囲み、学生諸君からの質疑応答を行う。 ■
	（自主準備）	●
	第４回 11月13日 （日）	第７コマ (13　: 40　～15　:10　)：北部方面総監部防衛部防衛課長による自衛隊の現状並びに日本を取り巻くリ地政学的リスクに関しての講義を行う。 ■
		第８コマ (15　: 25　～16　:55　)：自衛隊幹部との学生諸君との質疑応答 ■
	（自主準備）	●
	第５回 11月26日 （土）	第９コマ (11　:00　～12　:30　)：各チームで選定したテーマの最終案を参加学生の前でプレゼンテーションを行う。 ■
		第10コマ (13　:30　～15　: 00)：午前中のプレゼンテーションを受けて、一つのテーマに絞り、最終プレゼンテーション案を作成する。 ■
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（10:00～16:30予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（16:40～17:40 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		別紙参照
備考：		

石川ゼミ参考図書一覧

１．日本の生きる道	平川祐弘	飛鳥新社
２．日本人として知っておきたい「世界激変」の行方	中西輝政	PHP 新書
３．ルーズベルトの開戦責任	ハミルトン・フィッシュ	草思社
４．常識「日本の安全保障」	日本の論点編集部	文春新書
５．ロシア革命史入門	広瀬　隆	インターナショナル
６．ハリス　日本滞在記（上・中・下）	ハリス	岩波新書
７．日本の宿命	佐伯啓司	新潮新書
８．違和感の正体	先崎彰容	新潮新書
９．この国を守るための外交戦略	岡崎久彦	PHP
１０、カエルの楽園	百田尚樹	
１１．茶の本	岡倉天心	
１２．異形の大国　中国	桜井よしこ	新潮文庫
１３．日本の危機	桜井よしこ	新潮文庫
１４．人間知性論	ジョン・ロック	岩波文庫
１５．統治二論	ジョン・ロック	岩波文庫
１６．かぜの科学	ジェニファー・アッカーマン	はやかわ文庫
１７．気候危機	山本良一	岩波ブックレット
１８．平和の海と戦いの海	平川祐弘	講談社学術文庫

以上

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S4

テーマ		酪農・乳業の未来を考える
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		伊藤　慎（いとう　しん）
支援教員		中島　大賢（なかしま　たいけん）　大学院農学研究院助教
キーワード		酪農、乳業、産業発展、問題発見・解決
目的		日本の酪農・乳業の現状を理解し、将来ありたい姿とアプローチを考える。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45) 弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00) 【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ 自己紹介 ■ ゼミイントロダクション（目的・スケジュール等）
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】 ■ 演習テーマの総論紹介 ■ グループ分けとグループ内ディスカッション
	（自主準備）	● 前回総論を元に酪農の基本情報を調べ、チーム毎に課題を整理する（参考資料①～⑥）
	第２回 10月15日 （土）	第3コマ（ 10 : 00 ～ 13 : 30 ）：【現地視察】 ■ 町村農場の見学とレクチャー　9:00 北大発バスで移動　12:30 町村農場発北大へ
		第４コマ（ 14 : 30 ～ 16 : 00 ）：【現地視察】 ■ 振り返りディスカッション
	（自主準備）	● 現地視察を踏まえて、チーム毎に課題の整理と提案方針検討
	第３回 10月29日 （土）	第５コマ(14: 00 ～ 15 : 30 ）：【外部講師講話】 ■ 行政/民間の現在の取り組みにおいて残された課題の整理
		第6コマ（ 15 : 45 ～ 17 : 15 ）： ■ チーム毎の提案骨子の協議・共有
	（自主準備）	● チーム毎に提案内容報告準備
	第４回 11月12日 （土）	第７コマ（ 14 : 00 ～ 15 : 30 ）： ■ チーム毎に取り上げた課題と解決のためのアプローチ提言（プレゼン）打合せ
		第８コマ（ 15 : 45 ～ 17 : 15 ）： ■ チーム毎に取り上げた課題と解決のためのアプローチ提言（プレゼン）打合せ
	（自主準備）	● チーム毎のプレゼンテーション準備
	第５回 11月27日 （日）	第９コマ（ 10 : 00 ～ 11 : 30 ）： ■ プレゼンとフェロー・教員による講評
		第10コマ（ 12 : 45 ～ 14 : 15 ）： ■ 全体発表会に向けた準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（調整中）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】（大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（調整中）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		①日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』第8章「牛乳・乳製品」（筑波書房） ②中央酪農会議HP：http://www.dairy.co.jp/index.html ③日本乳業協会HP：http://www.nyukyou.jp/index.html ④milk-land酪農には北海道を支えるチカラがある：http://www.milkland-hokkaido.com/rakunou-chikara/ ⑤Jミルク「牛乳・乳製品の知識」：https://www.j-milk.jp/tool/kiso/berohe0000004ak6.html ⑥農林水産省畜産部HP：https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/index.html
備考：各回の授業の時間帯が異なるのでご注意ください。詳細は第１回に説明します。		

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S7

テーマ		持続的な健康促進、未来の生き方を考える
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		大友　俊彦（おおとも　としひこ）
支援教員		野澤　俊介（のざわ　しゅんすけ）　高等教育推進機構准教授
キーワード		健康、医療、公共サービス、福祉、高齢化、街づくり、持続性
目的		医療・福祉の状況をふまえ,健康促進,健康に生きるための課題を考察し,あらゆる年齢の人が健康で暮らせるための社会の在り方を考える
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■自己紹介 ■ガイダンス（ゼミの目的，スケジュールの説明）、演習テーマ解説
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】 ■外部講師による講演：町田札幌副市長『札幌市における健康寿命延伸施策(仮)』 ■チーム編成，リーダー決め ■現地視察に向け、各チームで課題抽出、取り組みの方向性など議論
	（自主準備）	●参考文献を含め、各自参考となるような取り組みの調査ならびに課題抽出
	第２回 10月15日 （土）	第3コマ (午前)：【現地視察】 ■札幌市における『健康講座』など取り組み先の視察
		第４コマ (午後)：【現地視察】 ■現地視察内容のディスカッション
	（自主準備）	●外部講師講演ならびに現地視察をふまえ、それぞれが考える「あるべき姿・課題」に関するレポートの作成，提出
	第３回 10月29日 （土）	第５コマ(9:15 ～ 10:45)：【 ディスカッション・プランニング】 ■チーム毎に課題・解決に向けたアプローチに関する議論
		第６コマ (11:00 ～ 12:30)：【 ディスカッション・プランニング 】 ■チーム毎に課題・解決に向けたアプローチに関する議論，プレゼン打ち合わせ
	（自主準備）	●チームでの資料作成、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出
	第４回 11月12日 （土）	第７コマ （ 9:15 ～ 10:45)：【 ディスカッション・プランニング】 ■各グループからのプレゼン発表
		第８コマ (11:00 ～ 12:30)：【 ディスカッション・プランニング 】 ■各グループからのプレゼン内容に関する意見交換，全体発表に向けた準備
	（自主準備）	●最終プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出
	第５回 11月26日 （土）	第９コマ (9:15 ～ 10:45)：【 ディスカッション・プランニング】 ■各グループからのプレゼン発表
		第10コマ (11:00 ～ 12:30)：【 ディスカッション・プランニング 】 ■各グループからのプレゼン内容に関する意見交換，全体発表に向けた準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（10:00～16:30予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー 】 （大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（16:40～17:40 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書 https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000495323.pdf 190万都市，札幌市の人口構造に見る課題　https://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokkaido/pdf_all/hokkaido0909_01.p 健康さっぽろ21（札幌市健康づくり基本計画）　http://www.city.sapporo.jp/eisei/kenkozukuri/kenko21/index.html 『社会的処方　孤立という病を地域のつながりで治す方法』西 智弘 編著（学芸出版社）
備考：		

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S11

テーマ		メディアコミュニケーションの視点からみる持続可能な発展
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		萩野　泉（はぎの　いずみ）
支援教員		亀野　淳（かめの　じゅん）　高等教育推進機構教授
キーワード		メディア，コミュニケーション，アイデア発想，ライフスタイル，持続可能な発展
目的		新しいデバイスやアプリケーションの登場やデータの増大を伴うテクノロジーの発展，社会環境や意識価値観の変遷による情報接触環境の変化により，ユーザー体験が継続的に変化しながら多様性を帯びているメディアコミュニケーション領域の視点から，これからの世界諸国・日本・北海道における「持続可能な発展」に必要なアイデアを考える。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第１コマ（13：15～14：45）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ●事前準備：参考文献の閲読/閲覧（★マークは初回までに必須） ■ゼミの説明、自己紹介、各種作業 ・ゼミテーマの説明（25分） ・ゼミ生自己紹介（60分） ・チーム分け（5分）
		第２コマ（15：00～16：30）：【各ゼミでの授業】 ■ゼミで取り上げるテーマの説明、グループディスカッション ・ゼミテーマを基にした個人ワーク/グループディスカッション（25分） ・ゴールデンサークル理論に関する動画閲覧（20分） ・チーム調整（10分） ・グループディスカッション：仮説出し（30分） ・次回オリエンテーション（5分）
	（自主準備）	●UHB提供番組の視聴（テレビ、TVer、見逃し配信など） （例）https://www.uhb.jp/program/ittoko/minogashi/ ●UHB提供イベント・キャンペーンのチェック（https://www.uhb.jp/event/） ●各種新聞の閲読
	第２回 10月16日 （日）	第３コマ（09：30～15：00）：【現地視察】 ■北海道文化放送株式会社（UHB）様での現地視察 ・局内見学、スタジオ見学 ・報道ご担当者様からの講義 ・コンテンツ/バラエティなどの企画・制作ご担当者様からの講義 ・質疑応答 ※天災や北海道内での事件発生時には、局内での緊急対応が必要となるため見学が難しく/中止となる可能性はあります
		第４コマ （同上）：【現地視察】 ■同上
	（自主準備）	●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討
	第３回 10月29日 （土）	第５コマ（13：00～14：30）：【グループ内ディスカッション】 ■仮説と現地視察で得た示唆などを基にしたゴール（ありたき生活者/世界の姿）の設定 ・オリエンテーション（10分） ・各自作業（20分）×2回 ・グループ内ディスカッション（20分）×2回
		第６コマ（14：45～16：15）：【グループ内ディスカッション】 ■ゴール（ありたき生活者/世界の姿）の設定と、それを実現する方法の検討 ・各グループ内でのまとめ（30分） ・各自作業（15分）×2回 ・グループ内ディスカッション（15分）×2回
	（自主準備）	●各自情報収集、発表用資料作成準備

	第４回 11月12日 （土）	第７コマ（13：00～14：30）：【グループ内ディスカッション・資料作成】 ■設定したゴール（ありたき姿）とそれを実現する方法の検討 ・グループ内ディスカッション（20分）×2回 ・各自作業（15分） ・資料作成にかんするオリエンテーション（15分） ・資料作成（20分）
		第８コマ（14：45～16：15）：【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■各グループが考えた内容の発表、意見交換 ・グループごとに発表・質疑応答（40分） ・グループ内ディスカッション（20分） ・資料作成・データ収集（30分）
	（自主準備）	●発表用資料作成
	第５回 11月26日 （土）	第９コマ（13：00～14：30）：【グループ間ディスカッション】 ■各グループでまとめた資料を発表し、全体発表会で発表するチームを決める ・資料修正、データ収集などの作業（15分） ・グループごとに発表・質疑応答（60分） ・発表グループの決定（15分）
		第10コマ（14：45～16：15）：【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■各グループでまとめた資料を発表し、全体発表会で発表するチームを決める ・資料修正、データ収集などの作業（90分）
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（調整中）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】（大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（調整中）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		★イノベーションに関する動画 https://www.youtube.com/watch?v=CkDH3kW4bUM https://vimeo.com/48997854 ゴールデンサークル理論に関する記事 https://www.rarejob.com/englishlab/column/20190525/ SDGs思考 2030年のその先へ 17の目標を超えて目指す世界 https://www.amazon.co.jp/dp/4295009970
備考：		

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S5

テーマ		スタートアップを通じて社会課題の解決にチャレンジする
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		廣重　勝彦（ひろしげ　かつひこ）
支援教員		
キーワード		スタートアップアップ（起業）、社会課題、行動力、仮説・検証、ネットワーク、リーダーシップ、利他性、倫理
目的		社会課題を自分事として捉え、自らの力で解決する力を身に着ける
到達目標		１．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 ２．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 ３．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 ４．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弛副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ スタートアップは何を目指すか ■スモールプレゼンテーションとチーム作り
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】 ■ビジネスアイデアのまとめ方 ■初めてのピッチとカイゼン
	（自主準備）	●起業家と話したいこと、質問したいことをまとめる。
	第２回 10月15日 （土）	第3コマ（ 12 :30 ～14 :00 ）：【現地視察】 ■第2回ピッチトライアル　(講師)株式会社インバウンドテック代表取締役 東間大 氏　13:45北大発バスで移動 第４コマ (14 :30　～ 18: 00)：【現地視察】 ■現地視察にて見学・ミーティング　(講師)株式会社インバウンドテック代表取締役 東間大 氏 17:00マオイ自由の丘ワイナリー発　北大へ
	（自主準備）	●起業家のアドバイスをベースに、自分が解決したい社会課題を深くりサーチする。
	第３回 10月29日 （土）	第５コマ（ 9 :00 ～10 : 30）： ■ビジネスモデルのブラッシュアップ（１）
		第6コマ（10: 45～ 12 :15 ）： ■ビジネスモデルのブラッシュアップ（２）
	（自主準備）	●課題を抱えた現地の人に聞いてみよう。
	第４回 11月12日 （土）	第７コマ (9 :00 ～ 10 :30)： ■ビジネスプランの確立
		第８コマ（ 10 : 45　～ 12 : 15 ）： ■ゼミ内のピッチ大会と講評
	（自主準備）	●自分のビジネスプランを本当に実現するために何が必要かを考える。
	第５回 11月26日 （土）	第９コマ（ 9 :00～ 10 :30)： ■日本や世界の課題を俯瞰する
		第10コマ（ 10 :45 ～12 :15)： ■まとめとシンポジウムの準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（10:00～16:30予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（16:40～17:40 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		『後世への最大の遺物（内村鑑三著、岩波文庫）』；北大の巨人である内村鑑三がお金と起業の重要性を説く。 『ゼロ・トゥ・ワン（ピーター・ティール 著、NHK出版）』；スタートアップ界で最も影響力がある起業家の自著。 『SHOE DOG（フィル・ナイト著、東洋経済新報社）』；学生がシューズ会社を起業し「NIKE」になるまでの自伝。 『初音ミクはなぜ世界を変えたのか?（柴那典著、太田出版）』；「初音ミク」を生み出した北大ベンチャーの実話。 『初めての海外個人投資（廣重勝彦著、日経文庫）』；投資家目線で世界がどのように見えるのか。
備考：「できるできない」を考える前に「まずやってみる」ゼミです。もし、やってできなければ「カイゼン」して再びトライ。それを繰り返すことにより、自分の力で課題解決できることが分かってきます。さらに、起業家との交流を通じて、自分の目指す方向が見えてくるはずです。		

補足資料 1

2022年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S10

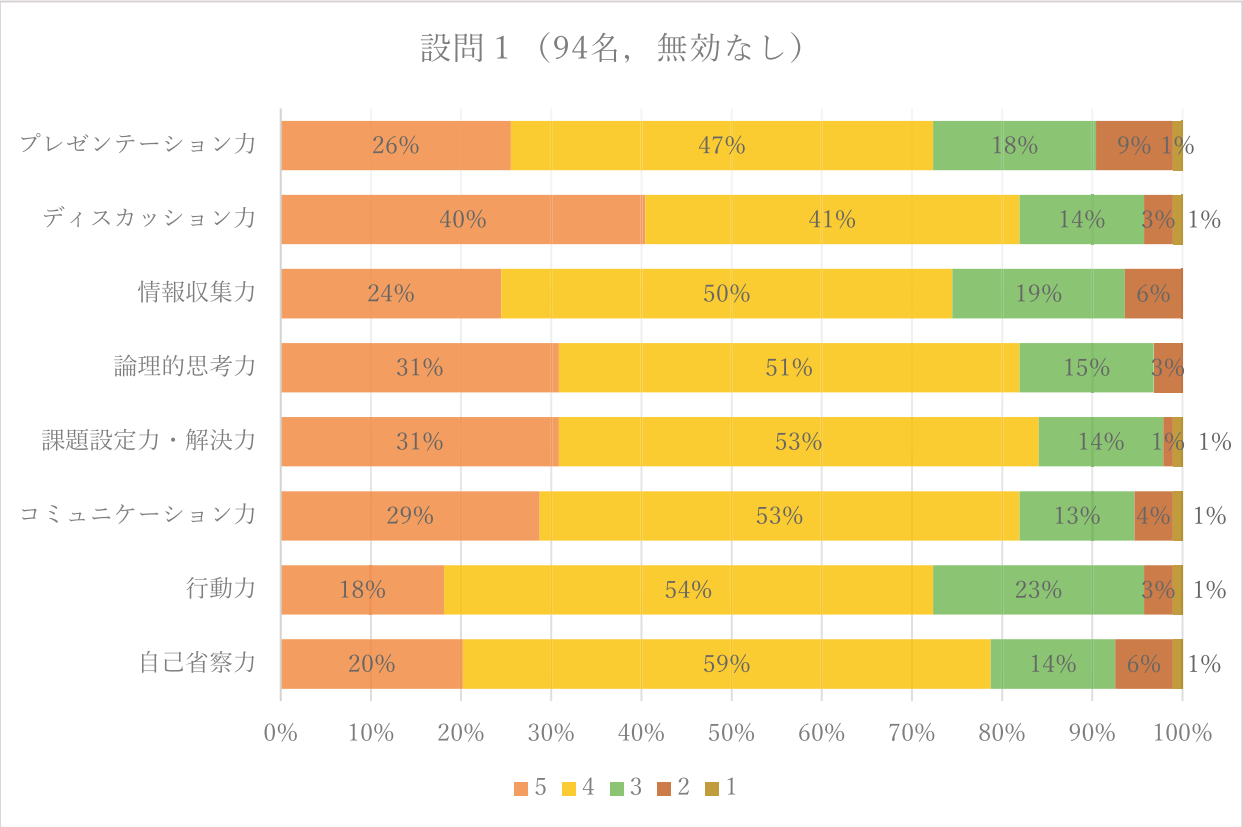
テーマ		「競争と協業」で「持続可能な社会」の実現を目指す
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		松尾　望　（まつお　のぞむ）
支援教員		山畑　倫志（やまはた　ともゆき）高等教育推進機構講師
キーワード		持続可能な社会、競争、協業、知的財産、オープンイノベーション、産学連携、脱炭素社会、エネルギー、デジタルトランスフォーメーション、メディカルエレクトロニクス、EV、自動運転、コネクテッドカー、AI、IoT、ディープテック
目的		製造業を中心に発明や開発で競争を繰り広げて来た産業界が、「持続可能な社会」に目を向けはじめ、また、AI、IoT等の様々な新技術の進展や、ディープテックへの関心の高まりの中で、協業が一層注目される方向にあります。今後の社会を担う新渡戸カレッジ生に、社会変革に向けた提案とその実現のためのコラボレーションの重要性を理解して頂き、今後の持続可能な社会を実現するためにどのようなマインドを大切にし、どのように行動して行くべきかについて考えて頂くことを目的とします。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容	第1回 10月1日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45) 弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00) 【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ 講義：競争と協業　- 社会の発展を担う競争の構図と、協業意識の高まり - ■ グループ討議：「競争と協業」なぜなぜディスカッション
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】 ■グループ 討議：協業のメリットと協業の事例 ■グループ討議：協業における問題点と解決策
	（自主準備）	●現地視察に関する事前調査（視察先のビデオ紹介視聴／質問点の事前抽出：提出不要）
	第２回 10月15日 （土）	第3コマ (13:15～14:45) ：【現地視察フォロー】　※現地視察については備考参照 ■グループ討議：現地視察に関する振り返り ■意見交換：チーム代表者による現地視察報告と質疑応答
		第４コマ (15:00～16:30)： ■講義：SDGsを実現するための新たな開発と協業の必要性
	（自主準備）	●現地視察レポート（10/22提出〆切）、Dr.Gyula Beszterceyの資料の予習（提出不要）
	第３回 11月5日 （土）	第５コマ(13:45～15:15)：【外部講師による講義1】by Dr.Gyula Besztercey, President, FETI（Furukawa Electric Institute of Technology） ■<Special Lecture by invited speaker 1> International collaborations toward next generation Technologies（tentative）
		第６コマ(15:30～17:00)：【外部講師による講義2】 ■<Special Lecture by invited speaker 2> International collaborations toward next generation Technologies（tentative）
	（自主準備）	● 11/5の講義に関するレポート（講演要旨、講演者への質問及びメッセージ（英文））（11/12提出〆切）
	第４回 11月12日 （土）	第７コマ (13:15～14:45)： ■グループワーク：SDGs実現のための協業モデルの提案（誰と協業して何を実現するか？どういう課題があるか？どうやって課題を克服するか？）
		第８コマ (15:00～16:30)： ■グループワーク：中間発表と意見交換（各グループが発表し、質疑応答、改善意見等）
	（自主準備）	●グループ毎の協業モデル継続検討（必要に応じ）
	第５回 11月26日 （土）	第９コマ (13:15～14:45)： ■グループワーク：各グループの協業モデル提案のブラッシュアップ
		第10コマ (15:00～16:30)： ■グループワーク：各グループの協業モデルの発表と討議
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/6（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/7（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月10日 （土）	（10:00～16:30予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】（大講堂） ■フェローゼミ及びアドバンストゼミの発表、講評、表彰
		（16:40～17:40 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		1）日本SDGs協会ホームページ　https://japansdgs.net/ 2）Society 5.0 -ともに創造する未来 -（2018年11月 経団連）http://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095_gaiyo.pdf 3）稲穂健一著「楽しく学べる「知財」入門」2017年　講談社現代新書 4）米倉誠一郎、清水洋編「オープン・イノベーションのマネジメント」2015年　有斐閣 5）脱炭素社会の実現に向けてIoT　https://www.internetacademy.jp/it/programming/programming-basic/decarbonized-society-realized-iot.html 6）【ディープテック】注目される理由や世界の事例を詳しく解説 https://r-startupstudio.com/detail/deeptech 7）ＢＳ１スペシャル「市民のアイデアでコロナと闘う～ヨーロッパが挑むスピード変革～」 20200808 - 動画 Dailymotion 8）産業技術研究所北海道センター紹介　https://www.youtube.com/watch?v=H87COIF5PIQ 9）ドコモ5Gオープンラボ紹介　https://www.docomo.ne.jp/info/notice/hokkaido/page/190920_00.html 10）5G活用モデル　動画紹介　https://go5g.go.jp/carrier/ 11) Erin Meyer, "The Culture Map"（PublicAffairs ） 12) Jared Diamond, "Guns, Germs, and Steel" (W.W. Norton&Company,1999) pp.239-264（Chapter13）（翻訳版「銃・病原菌・鉄」草思文庫等） 13) Yuval Noah Harari, "Sapiens -A Brief History of Humankind-"(Penguin Random House UK, 2011) pp.275-306 (Chapter 14)（翻訳版「サピエンス全史　文明の構造と人類の幸福」）
備考：①産業技術研究所北海道センター（月寒）及び②北海道ドコモ５Gオープンラボ（北１西14）の視察を計画しています。視察は両者とも土日・祝日が休館のため，①産業技術研究所については、先方都合で10/11（火）の午前、午後の2回、②ドコモ5Gオープンラボについては10月14日（金）の午前1回及び午後２回程度（都合3回）を設定する予定です。このゼミの履修を希望する学生は、できるだけ①②の2箇所両方に、それぞれ可能な時間帯に参加できるようにしてください。後日希望を取り、それぞれにおいて、予めグループ分けをさせて頂きます。		

補足資料２

2022 年度新渡戸学（フェローゼミ）授業アンケート報告書

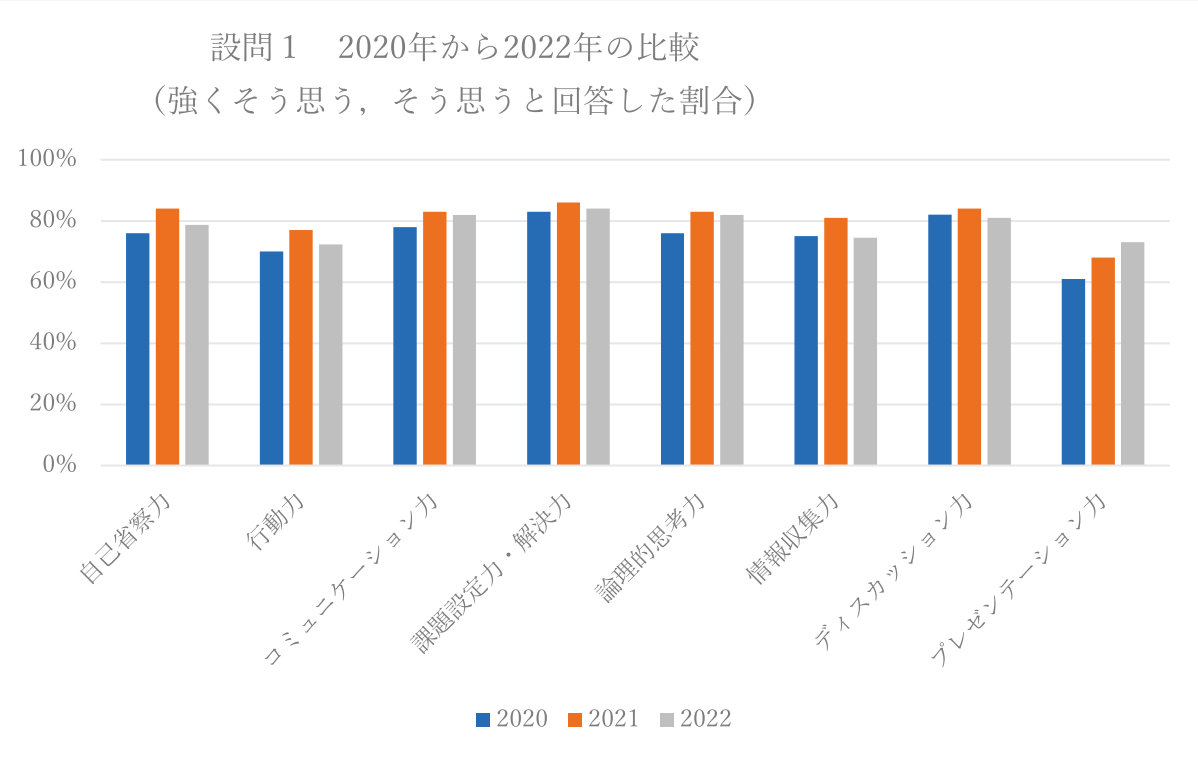
設問１　フェローゼミを受講することによって以下の各項目は向上したと思いますか。それぞれについて該当するものを１つ選んで(　　)に評点を数字で記入してください。

評点は，５：強くそう思う
４：そう思う
３：どちらともいえない
２：そうは思わない
１：強くそう思わない
の順とします。



2022 年度に「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生が 80%を超えた項目は，「ディスカッション力（81%）」「論理的思考力（82%）」「課題設定力・解決力（84%）」「コミュニケーション力（82%）」の４項目で，2021 年度の６項目より項目数が減った（情報収集力と自己省察力が減った）。一方，低かった項目は「行動力（72%）」「プレゼンテーション力（73%）」であった。設問 1 では毎年，プレゼンテーション力が他の項目と比べて低い結果となっている。

（参考）



・2020 年度は Zoom で実施。2021 年度，2022 年度は対面で実施。

・2020 年度からの比較でみると，2022 年度に「強くそう思う」「そう思う」と回答した割合が最も高かった項目はプレゼンテーション力である。プレゼンテーション力を除く７つの項目については 2021 年度が最も割合が高かった。

設問２　フェローゼミの４つの到達目標はどの程度達成できたと考えますか。それぞれについて範囲０～100％の数値で示してください。

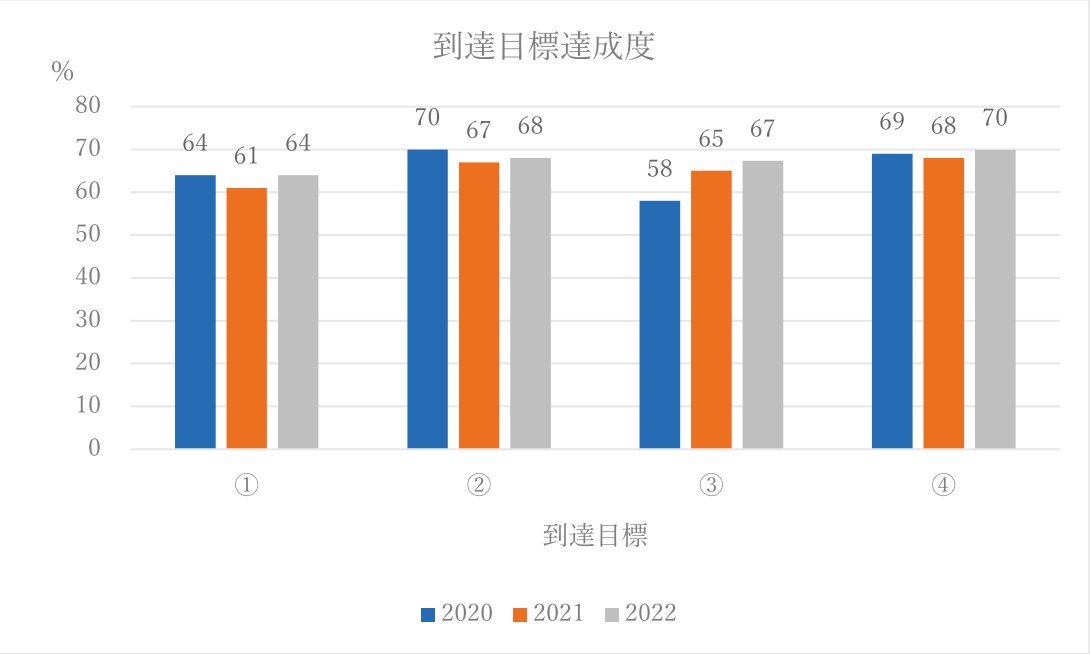
①　新渡戸カレッジが示すリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。

②　テーマについてよく調べ，意見をだし，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。

③　ゼミでの実地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。

④　ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。

補足資料２

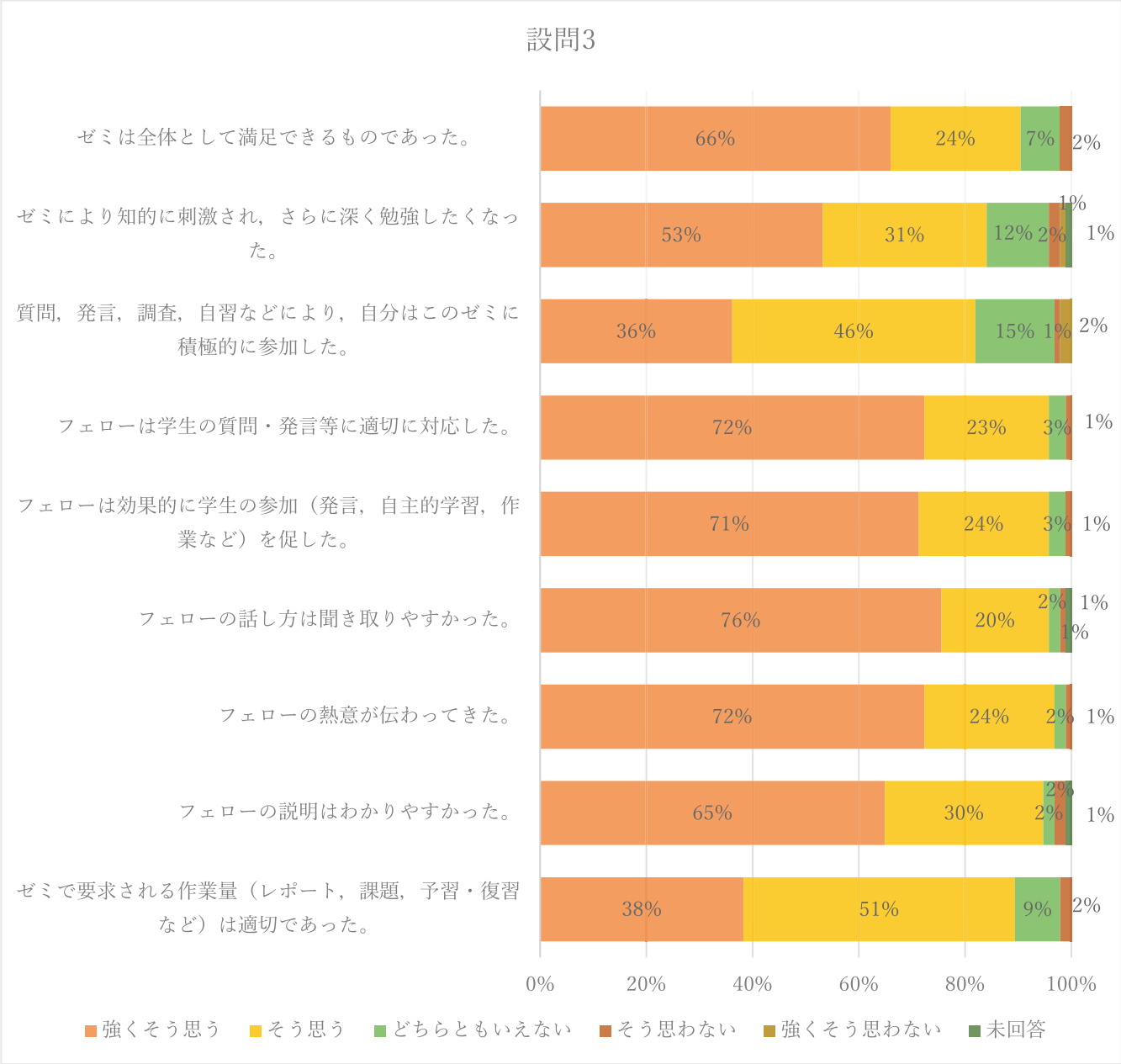


回答数

	①	②	③	④
2020	90	90	90	90
2021	114	114	113	114
2022	94	94	94	94

・到達目標達成度については，2022 年度は「④ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる」が最も高く，「①新渡戸カレッジが示すリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる」が最も低かった。
・2020 年度からの比較でみると，2022 年度は①から④すべての目標で到達目標達成度が 2021 年度を上回った。

設問３　フェローゼミについて，以下の各設問に対してどう考えますか。
それぞれについて，該当するものを１つ選んで（　　）に評点を数字で記入してください。
評点は，５：強くそう思う
４：そう思う
３：どちらともいえない
２：そうは思わない
１：強くそう思わない
の順とします。⑦については，範囲 0～100％の数値を［　　］に記入してください。



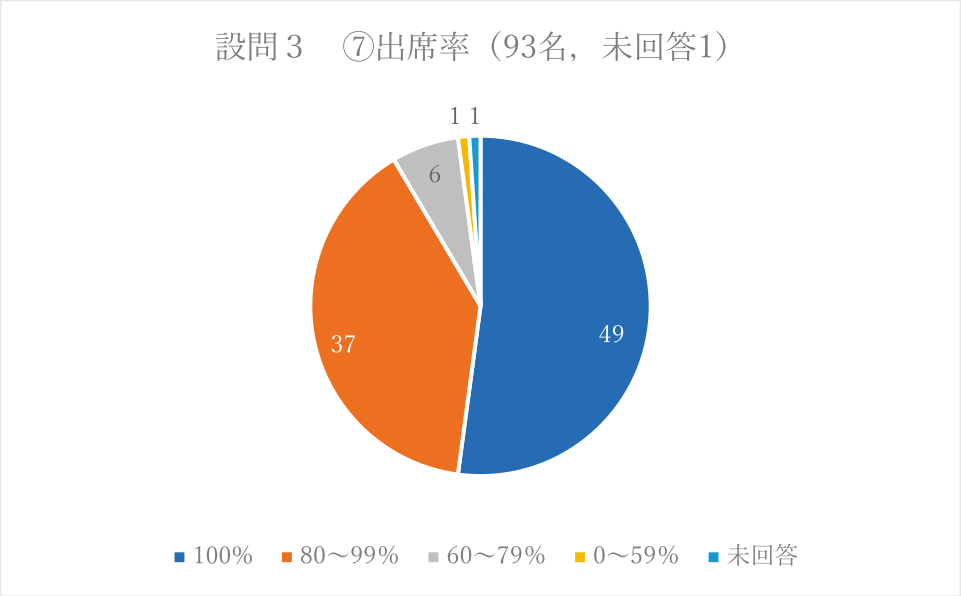
・フェローに対する評価[1]は 2022 年度も高かった（84%～96%）

（参考）

2020	2021	2022
96%～97%	84%～92%	84%～96%

[1] 「質問，発言，調査，自習などにより，自分はこのゼミに積極的に参加した」を除いた各設問について，「強くそう思う」「そう思う」と回答した人の割合

設問３ ⑦　　このゼミの自分の出席率は［　　］%程度であった。



・80%以上出席した学生は 86 名（全体の 91%）だった。

（参考）80%以上出席した学生の割合

2020	2021	2022
95%	94%	91%

設問４　フェローゼミで良かったと思う点

- ディスカッションが出来たこと（28 名）
- 多くの仲間と出会うことができた（14 名）
- フェローや講師の話（11 名）
- 専門外の分野について学べる点（10 名）
- 良い刺激を受けた（８名）
- プレゼンスキルが身に付いた（8 名）

設問５　フェローゼミで改善したほうがよいと思う点

- 全体発表までの準備時間が短い（10 名）
- 土曜日ではなく平日に行って欲しい（6 名）
- 毎週行って早く終わらせてほしい（3 名）

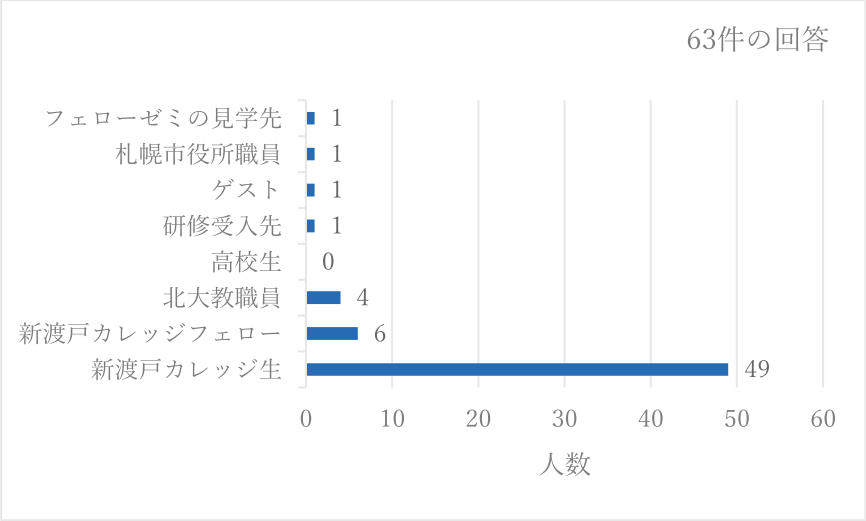
設問６　その他，気づいたこと

- ありがとうございました。
- 楽しい雰囲気で活動できてよかったです。
- 各ゼミ毎に集まる学部に偏りがある気がするので，もう少し偏りがなくなるといいと感じたが，偏りがあるとはいっても多くの学部の人がいるので，楽しく活動できた。
- 自分のやりたい，やるべきこととは違うなと気づいた。
- 全部の班の発表をくっつけるのに相当苦心した。最後にくっつけるのだとしたら事前にもう少しプレゼンテーマを絞るなどした方が良かったのではないだろうか。
- チームメンバー全員の予定が合う日が少なく，なかなか集まれなかったことが残念だった。
- 2 週間に 1 回だったので，思ったより少なく感じた。酪農について学べて楽しむことが出来た。
- 話合いを進めていくのが難しかった。振り返ってみると，フェローが用意して下さったレクチャーの内容を十分に生かせていなかったと感じた。
- フェローが多くの時間をさいて私たちの学びをサポートしてくれたのがとてもありがたかった。
- 折角撮影して頂いたのだから，写真(集合写真やシンポジウムの様子など)を共有してほしいと思った。
- とても楽しかったです！
- 定期的な交流の企画お願いします。
- 自分の積極的な参加が足りなかったように感じる。
- 面白い人たちと出会えたので良かったです。
- もともと上がり症なので，150 人の前で発表を乗り切ったことは自信につながった。

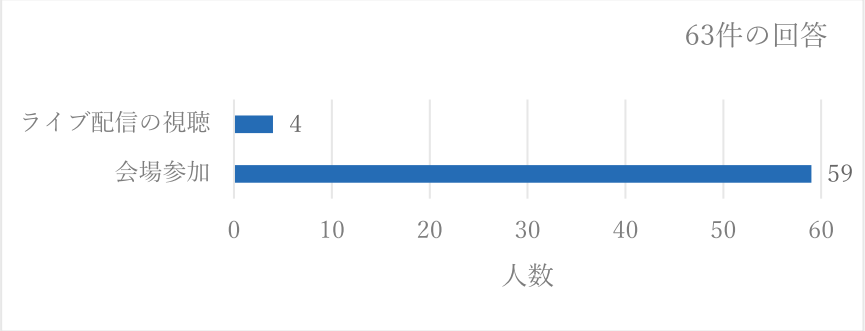
補足資料３

2022 年度新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会に関するアンケート

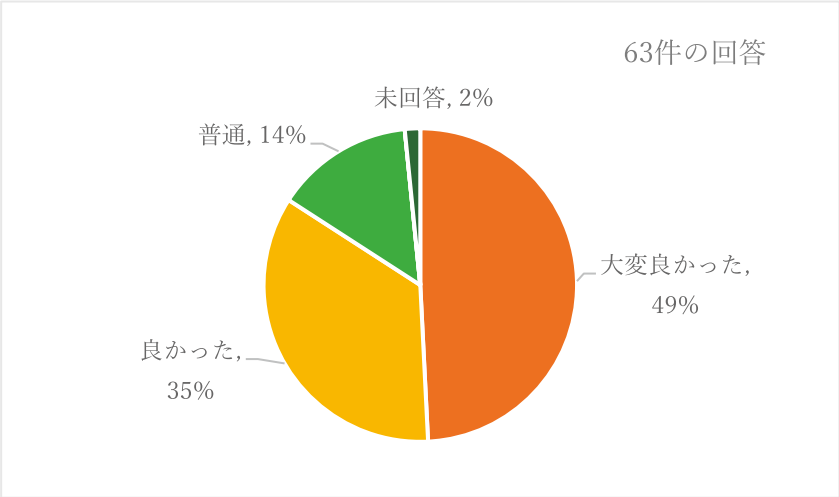
１．ご自身についてあてはまるものにチェックを入れてください。



２．本日の参加方法についてあてはまるものを選んでください。



３．「2022 年度新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会」についての評価をお願いします。



４.「新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会」のご感想やご意見をご記入ください。

- 発表の内容も悪くありませんでしたが，各発表に対する質問の鋭さに感心することが多々ありました。
- 各ゼミが大きなテーマに対して，現状分析と課題の絞り込み，それに対する解決策についてよく考え，分かりやすく発表されていたので自分自身とても勉強になった。また，質問も的確で建設的であり，今回参加されている皆さんが，さらに議論を深めていくともっともっといいものが出来ていくのではないかとワクワクしながら聞かせていただいた。ありがとうございます。
- 課題についていえば，私個人としては，できるだけ身近なテーマ　実現可能なテーマを選んで欲しいと思います。
- 各ゼミの発表ともに，社会課題の認識や設定が的確で，新鮮な視点での提案をしていると感じます。
- 提案は荒削りなところもあったかと思いますが，新鮮な着眼点を大切にしながら，社会実装に向けて，検討を掘り下げていくことで，皆さんの研究や実践スキルがブラッシュアップされることを期待します。
- イベント告知の時間が楽しかった。同年代の発表を見て自分も何か発信しようと思った。とても良い機会になった。同じグループの人と食事に行けて楽しかった。アドバンストゼミでフェローゼミでの提案を実現することが北大がスタートアップを本当に支援していくことに繋がると思う。確かに課題自体はフェローから与えられたものなのだが，その中の問題点をみつけ解決案を提示したのは学生自体なのだからそこまでバイアスがあるとも思えず，学生の自主性は保てているのかなと思う。
- 勉強になる内容ばかりでよかった。
- 新たな考えが自分の中にできて，大変有意義でした。
- 他のゼミの発表を聞いて，とても興味がそそられました。
- プレゼンが凄すぎて，自分もこれから頑張らないと，と思うようなシンポジウムでした。ありがとうございました。
- 発表の内容からだけでなく，発表の仕方から学ぶことがあった。
- 少し長くて疲れたましたが概ね楽しく聞くことができました。
- 全７つのフェローゼミとアドバンストゼミの発表を聞いて，とても学びのある時間でした。
- 体調が芳しくなかったので YouTube でのライブ配信があったのは非常にありがたかった。ただたまに音声が聞こえないことがあったのでそこは来年以降改善していただけるとより快適になると思う。
- 各ゼミの発表や，それに対する質問から，新たな知識や，こういう考え方もあるのかという気付きを得ることができ，とても学びが多かったです。
- 他のゼミの話が聞けて興味深かった。
- 様々な課題に対する見方が多様であり，参考になった。会の運営としては，マイクのボリュームが安定せず，音声が聞き取りにくいことがあった。

- さまざまな視点や分野の発表を聞けてとても有意義であった。
- それぞれのゼミの発表を聞くことが出来てとても楽しかったです。自分も発表をさせていただきましたが，どうやったら上手く聞いている人に伝えることが出来るのかなどグループのメンバーと試行錯誤をしながらより良いプレゼンを作っていく工程はやりがいの感じられるものでした。さらに発表のみに終わらず質疑応答で私たちのみでは思いつかなかったような新たな視点からの意見を聞くことが出来たのも楽しかった部分です。学生大賞へのこだわりは特にありませんでしたが，いざ対象が決まると少し悔しさを感じました。悔しいと思えるくらい全力で挑めたということだと思います。
- ①プレゼン資料の作り方（全体の構成，わかりやすさ），②一歩踏み込んだ考察，③提案の質ともに非常にレベルの高いものとなっていたように思います。今後にさらに期待しております。
- 質問の受け答えが大変そうだった。
- さまざまなゼミの方の考えを聞けてとてもおもしろかったです。また，プレゼンの仕方やパワーポイントの作り方などこれから参考にしたいと感じました。
- 初めて知る分野の発表が立て続けで，ちょうどよい疲労感が残りました。英語の質問も取り上げていただくとグローバルになるかなと思います。
- 質問方法について，プレゼン前にされた質問がプレゼン内で説明された内容を再度聞いていることが多く，時間の無駄になっていると感じたので改善をお願いします。
- みんなが三ヶ月で頑張った結晶がここにあらわれた。通常授業の片隅でやる活動であったが，一番刺激的な時間だった。
- 質疑応答のシステム(いいね)が優秀だと感じた。進行の方もとてもスムーズに進めてくれた。
- 質問やプレゼンが更に洗練されるとなおよかったと感じた。
- 自分の参加していたゼミ以外でどんなことが行われていたのかをしれたのが良かった。
- 各フェローゼミがそれぞれ特色ある，興味深い学習，研究を行っており，聞いていてとても面白かったです。また，質疑応答も効率よく行われていて，円滑に進んでいたと思います。一方，フォームのミスやシステムトラブル等もみられたので，その点上手く対応していただきたかったです。
- 各ゼミの成果報告を聞いて，様々な意見や考えを聞くことができたので，とても刺激になりました！！
- 様々な分野に関する発表を聞けて，非常に興味深かったし，新しい刺激をたくさんもらうことができました。
- 様々なゼミの学びや提案をきくことができて良かったです。発表者として，はじめはとても緊張していたのですが，周囲のあたたかい雰囲気のおかげで楽しめました。
- 各ゼミの発表で，それぞれの特色が出ていて面白かった。
- 各チームのユニークなアイデアをきけてよかったです。
- 様々なゼミの発表を聞けたことで，とても興味をもてたし，勉強になった。また，同学年の方たちの頑張っている姿に奮起され，こちらも頑張ろうと思えた。
- 発表の本番の雰囲気を味わうことができ，貴重な体験をすることができました。
- 少し長かったので省略すると聴衆も集中できて良いと思いました。

- 様々なトピックにフォーカスしたゼミの話を聞けて楽しかった。強いて言うなら各ゼミの発表前にこのゼミのテーマはこれでこのような研修をしましたみたいなことを言ってほしかった。
- 報告会の様子をカレッジ生が家族や友人にいつでも見せれるようにしていただきたい。大学としても公報となる。萩野ゼミの「拡散」に当る。報告に留めず，実現に向けて行動していただきたい発表が多々ある。次のステップに進める機会を学生に提供する新渡戸の役割を感じた。
- 運営を円滑に行うことができた大きな要因である大学スタッフに感謝致します。
- 質問や質疑応答の目的趣旨を事前に説明したのがよかった。教育になっていると思う。質問者は質問するだけで自分の考えを述べない限界はあるが，課題発見のきっかけにはなっていて，発表者にとっても情報収集になっている。学生が関心を向ける先は，現状において問題状況にある組織を指しているようで，鋭いと思った。ほとんどの発表がデジタルの活用を含んでいて，若者の思考に感心するとともに刺激的でした。
- 学生中心のシンポジウムでとても活気があり，楽しかった。
- 学生諸君の発表は，堂々としていてすばらしかったです。各フェローゼミの発表内容は，具体化につながる可能性がある案件，アイデアも多かったと感じるので。更に，次年度でもテーマを継続して深堀りして行くべきではないかと思料します。あと，皆さん，質問を受けた時に，「質問ありがとうございます。」と言っていたのはとても良かった。
- 石川ゼミのテーマ（防衛）は，タイムリーであり，今までならば違和感があったかもしれないが，今後は，考え続けなければならず，学部の授業としても扱われなければならないものになるだろう。萩野ゼミの CivicTech はとても判りやすかった。学生ベンチャーで実践するといい！大友ゼミの内容は，先行団体に意見を求めるべき。現実はもっと困難ではないか？廣重ゼミ，時代をとらえた良いプレゼンでした。ピッチをここで行うというのはおどろきでした。廣重さん大変でしたね。
- 先輩から後輩へとつながるよい会でした。

2022.9.1(木) 実行部会 報告事項１－１

令和４年度（2022）

北海道大学新渡戸カレッジ　大学院教育コース

基礎プログラム（前期）実施状況

No.		科目名	単位数	頁
①	主要科目	大学院基礎科目Ⅰ（チーム学習の基礎）	2	
②	主要科目	大学院基礎科目ⅡⅠ　（チーム学習の実践）	2	
⑤	選択科目	大学院基礎演習：アントレプレナーシップ	1	

令和４年度基礎プログラム(前期)の実施状況について

春ターム「大学院基礎科目Ⅰ」（チーム学習の基礎）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2022 年 5 月 14 日(土)～6 月 18 日(土)
曜日(時限)　　：火曜日・木曜日（5・6 限目）に実施される各 1 クラス
＊ただし、第 1・7・8 週目は土曜日に実施（火曜日・木曜日クラスともに）
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S 講義棟

2. 実施体制

科目責任者　　：島田和久、繁富香織（以上、高等教育推進機構）
授業担当教員　：島田和久、繁富香織（以上、高等教育推進機構）
ティーチングアシスタント（TA）：
Eric Keba Lukueta（大学院工学院）、Dale Whitfield (大学院教育学院)、
Das Mahapatra Gaurab（大学院工学院）、Krivorotko Margarita（大学院工学院）、
Md Ishitiak Rashid（大学院生命科学院）、Sristi Saha（大学院農学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「３＋１の力」（自己更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理）を身につけたプロフェッショナルな人材の育成を目標としている。この目標達成のために受講生は、専門分野の異なる受講生と協働でプロジェクトに取り組む。本科目では、協働への貢献に必要となる受講生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「３＋１の力」に加え、創造的思考、批判的思考などの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

（2）授業目標

異なる大学院に所属し、様々な研究関心を探求している受講生らがチームを組み、 英語を<共通語>として課題に取り組むことを通して、

- 新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、創造的思考、批判的思考、プレゼンテーションなど個の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ受講生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会への影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- 提出が求められる課題（セルフプレゼンテーション・ポスター）
- 自己評価レポート
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用：授業内容へのコメントと自己評価

5. 授業内容

	授業内容
第 1 週 (5/14)	Course Orientation、Goal Setting ● オリエンテーション ・コースの目的と授業の進め方 ・学習目標、チーム学習の重要性についての説明 ● 新渡戸カレッジでの自身の目標を明確にし、「3 + 1 の力」を意識する（中間、最終授業で自身で達成度をチェック） Creative Thinking 1--- Be Creative ● ショートレクチャー：Creative Thinking ・創造的とは如何なることか、その重要性とは何か ・Thinking out of the Box―常識を脱構築する想像力 ・Brainstorming とは何か、なぜ Brainstorming するのか、効果的な Brainstorming のために何が必要か ● ブレインストーミング ・Picture Brainstorming ・Thematic Group Brainstorming、“Two Boxes”；知っているブランド名と製品名を別々に列挙しそこから自由な発想で組み合わせて斬新な製品を提案
第 2 週 (5/17, 19)	Creative Thinking 2 & Presentation --- Be Expressive ● Creative Thinking ・Thematic Group Brainstorming、“Movement with Purpose --- What if the Microsoft will donate 10 million US dollars to the creative Origami project of a group? ”；マイクロソフト社が 10 億円を拠出する折り紙プロジェクトに、どのような提案が可能であるか Brainstorming して、Presentation を行う ● Good Presentation ショートレクチャー ・“Good Presentation”とは―“Understandable”、 “Persuasive”、 “Emotional” ・効果的なプレゼンテーションの構成とは何か ● マイクロソフト社のプロジェクトに関して、プレゼンテーションを改善
第 3 週 (5/24, 26)	Critical Thinking --- Be Critical ● ショートレクチャー ・建設的な Discussion のために：コラボレーターとしての心構え、Facilitation という技法、Collaboration のための役割（Facilitator、Timekeeper、Recorder、etc.)。 ・Critical Thinking：Critical thinking とは如何なることか、その重要性とは何か ・Question to the Box―疑問を持つこと、アイディアを分析すること ・Data に基づく分析をすること ● チームディベートを通して Critical Thinking を実践 ・Should all education be offered online?
第 4 週 (5/31, 6/2)	Creative & Critical Thinking、Leadership、Team Project I ● ショートレクチャー ・Creative Thinking と Critical Thinking の違いと相補関係について ・チームプロジェクト I（SDGs）のトピックに関して ● ショートレクチャー：リーダーシップ ・“Leadership as Relationship”―“Leader”と“Leadership”の違いと相補性 ・Leadership への関与と貢献のために何が必要か ● チームプロジェクト I、”Achieve gender equality and empower women and girls (SDG #5) by applying Technology” ・“Technology” 概念の脱構築と新たな可能性 ・Technology の新たな独自定義に基づく Gender Equality 実現のための Social Enterprise
第 5 週 (6/7, 9)	Collaboration & Negotiation ● 前半：第 4 週で設定したプロジェクトの発表準備（自身のバックグランドをもとに他のメンバーとの共同プロジェクトの立案） ● 後半：チーム毎のプロジェクト発表
第 6 週 (6/14, 16)	Team Project II--- Be Practical ● チームプロジェクト II、” Work with your team members in your specialty for the case study of: Recovery process of Great East Japan Earthquake of 2011”